

東京大学大学院新領域創成科学研究科
環境学研究系自然環境学専攻
自然環境景観学分野
平成 28 年度 修士論文

中国河北省石家荘市におけるアグリ・ツーリズムの現状と課題に関する考察
-周家荘郷観光摘み取り園を事例として-

The Characteristics and Challenges of Agri-tourism in Shijiazhuang, China:
A Case Study of Zhoujiazhuangxiang Garden

2017 年 1 月 19 日提出

2016 年度 3 月修了

指導教員 斎藤 馨 教授

47-156616 周 云萱

目次

第一章 序論	4
1-1 研究の背景	4
1-1-1 中国におけるアグリ・ツーリズムの定義と位置付け	4
1-1-2 中国におけるアグリ・ツーリズムの発展	7
1-2 既往研究の動向	9
1-3 研究の目的	10
1-4 研究の方法	11
第二章 河北省及び石家荘市におけるアグリ・ツーリズムの展開過程の把握	12
2-1 本章の目的と方法	12
2-2 河北省の概況	12
2-3 石家荘市市内のアグリ・ツーリズム観光施設の現状と分類	14
2-4 小括	16
第三章 周家荘郷観光摘み取り園の実態の把握	17
3-1 本章の目的と方法	17
3-2 周家荘郷観光摘み取り園の実態	17
3-2-1 周家荘郷観光摘み取り園の概要と現状	17
3-2-2 市内の他施設との比較	20
3-2-3 周家荘郷観光摘み取り園における問題点	21
3-3 小括	23
第四章 周家荘郷観光摘み取り園の利用者の傾向及び満足度の把握	24
4-1 本章の目的と方法	24
4-2 アンケート調査の概要	24
4-3 アンケート調査の結果（単純集計）	27
4-4 アンケート調査の結果（データ分析）	34
4-5 小括	40

第五章 結果と考察.....	41
5-1 調査の結果.....	41
5-2 総合考察.....	42
5-3 今後の課題.....	43
参考文献.....	44
謝辞.....	46
要旨 (和文)	
要旨 (英文)	

第1章 序論

1-1 研究の背景

1-1-1 中国におけるアグリ・ツーリズムの定義と位置付け

中国におけるアグリ・ツーリズム（中国語：休閒農業）は、農村地域の農業、風景、文化と農村空間の持つ様々な生産機能を活用する観光活動を指す（詹, 2009）。具体例には、果物・野菜の摘み取り、農産物の加工体験、農作業体験、農家民泊、農村郷土料理の賞味や市民農園の利用などが挙げられる。

中国国家観光局により、中国国内の観光活動は自然観光旅行、人文旅行、休閒リゾート旅行、購物旅行と体験式旅行の五つに分類されている。アグリ・ツーリズムは、体験式旅行に該当する（表1-1）。

表1-1 中国国内の観光活動の分類

	定義	特徴	具体例
自然観光旅行	大自然の風景を楽しむ観光活動	普遍的な審美価値を持ち、観光客層は教育程度、身分や価値観の違いによって分けられない	自然風景区（国家公園など）、火山景観、熱帯林景観など
人文旅行	歴史的・文化的な人為性の観光資源を活用する観光活動	観光客層は教育程度、身分や価値観の違いによって分けられる	歴史文化層（遺跡など）、現代文化層（芸術・音楽の発祥地など）、民俗文化層（少数民族の村落など）、特色文化層（ビールフェスなど）
休閒リゾート旅行	消費者が閑暇時間を利用し、リラックスを主な目的とする観光活動	消費金額が高く、客層が富裕層に限られる。また、地方の観光産業への貢献が小さい	ビーチリゾートなどのリゾート地、温泉郷など
購物旅行	買い物をするを主な目的とする観光活動	観光より買物を重視する	香港、義烏小商品市場など
体験式旅行	様々な体験により、観光客の更なるニーズを満たす観光活動	観光客層は教育程度、身分や価値観の違いによって分けられる。消費の結果より過程を重視する	テーマパーク、アグリ・ツーリズム観光施設、乗馬体験など

また、中国におけるアグリ・ツーリズムにおいては以下の特徴が見られる（表1-2）。アグリ・ツーリズムの発祥地であるヨーロッパでは、アグリ・ツーリズムは長期滞在型の観光活動であるが、中国・日本などのアジア諸国では、短期滞在型が主流である（趙, 2015）。また、林(2013)、半澤ら(2010)、光定ら(2009)、斎藤ら(1998)により、日本におけるアグリ・ツーリズムは農産物の収穫体験やそれに付随した対面販売をベースにするものであり、農家かJA全農が期間限定で展開するケースが多い。一方、中国では、農家主体の小規模施設以外、ほとんどのアグリ・ツーリズム観光施設は生産用農地から独立し、観光施設としてのみ使用され、一年中観光客に向けて開放している（黄ら, 2012）。しかし、アグリ・ツーリズムの定義は国によって異なるが、「農村地域で余暇を過ごす」という点は共通している。

表1-2 アグリ・ツーリズムの特徴

定義	農業と関わり、農村地域の資源・風景・文化や農村の生産空間の持つ様々な機能を観光資源として活用する観光活動
利用する観光資源	主に農村風景、農村文化と農業資源の利用
分布	全国の都市部の近くの農村地域
メインターゲット	近隣の都市部の住民
主な形式	短期滞在型（日帰り含め）
主な交通手段	自家用車、市内バス、自転車など
消費金額	観光産業全体の一人当たりの消費金額より低い
利用頻度	観光産業全体の一人当たりの観光回数より高い

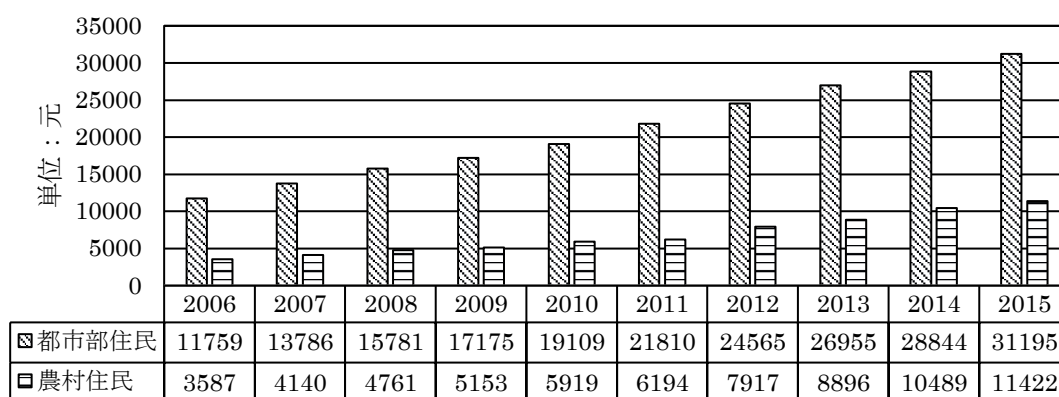
（中国農業科学院農業経済と発展研究所, 2009）より作成

中国におけるアグリ・ツーリズムは 1978 年の改革開放時期¹以降に展開され始めた。それ以前、中国国内観光の形式はほぼ大規模な開発、大量輸送や大量消費を目的とするマス・ツーリズム²であったが、週休二日制の推進、経済の発展、都市化率の増加、都市部の住民の生活水準の上昇や都市環境の悪化に伴い、都市部の中に「農村地域に滞在し、余暇を過ごしたい」というニーズを持つ住民が増えた。これは、アグリ・ツーリズムの展開の背景の一つであると考えられる（蘆ら, 2001）。

もう一つの背景は、アグリ・ツーリズムが農村住民の収入を増加させる手段として注目されたことである。

¹ 1978 年から、中国にて農業、工業、国防、科学技術の「四つの近代化」に向けて始まった国内改革および対外開放時期。

² 大衆の間に広く行われるようになる観光行動。



■ 都市部住民 □ 農村住民

図1-1 中国都市部住民と農村住民の一人当たりの平均可処分所得の推移

中国経済の発展を阻害する重要な要素の一つは、都市と農村の発展の差である（蘆ら, 1995）。中国では、都市住民と農村住民の一人当たりの平均可処分所得は毎年増加しているが、農村住民の一人当たりの平均可処分所得³は2015年の時点でも都市住民より遥かに少なく（図1-1）、国全体の発展の障害となっている。そこで、アグリ・ツーリズムが農村住民の収入を増加させる新しい手段として注目され始めた。

2012年6月に、国家農業部郷鎮企業局が主催した全国の13.5万ヵ所のアグリ・ツーリズム観光施設を調査対象とした『全国アグリ・ツーリズム発展状況研究報告書』が公表された。報告書により、2010年の時点で、中国国内のアグリ・ツーリズム観光施設の平均土地産値⁴が18万元（約305万円）/haで、利益は5.5万元（約93万円）/haであり、全国の農業用地の平均産値（2.9万元（約49万円）/ha）の6.2倍である。また、アグリ・ツーリズム観光施設の従業員の一人当たりの労働産値⁵は5.4万元（約91万円）で、全国の農業労働力の平均労働産値（2.0万元（約34万円））の2.75倍である。この調査結果により、アグリ・ツーリズムの展開による農村住民の収入の増加が明らかになった。

また、アグリ・ツーリズムの展開により、農村地域や農村住民が得られるメリットは主に以下の五つである。（全国農業工作会議要約, 2008）

(1)農村における第二次・第三次産業の発展の促進

アグリ・ツーリズムは農業と観光産業を結合させる新興産業であり、伝統農業と第二次・第三次産業の間の境を破ることができ、農村における第二次・第三次産業の発展を促進することができる。

(2)農村住民の就業の促進

³ 農村住民の平均可処分所得は2013年から統計され始めたため、2006-2012年の農村住民のデータは平均可処分所得ではなく、純収入（一年間の全ての収入から全ての支出を引いた値）である。

⁴ 平均土地産値は、1ヘクタール当たりの農業用地により得た売上の合計値である。

⁵ 労働産値は、施設の総売り上げを従業員数で割った値である。

アグリ・ツーリズム観光施設を維持するためには、伝統農業より多くの人手が必要であるため、アグリ・ツーリズムの展開により、農村の過剰労働力を減らし、農村住民の就業を促進することができる。

(3)生産者と消費者の距離を縮める

アグリ・ツーリズムにより、生産者である農民が直接に消費者に農産物を販売することができ、出費を抑えることができる。

(4)農村と都市の距離を縮める

アグリ・ツーリズムの展開により、農村住民と都市住民の交流が増え、農村住民と都市住民の価値観、生活観や意識の差を減らすことができる。

(5)農業資源以外の農村資源の活用

アグリ・ツーリズムは主に農業資源を観光資源として活用する観光活動であるが、アグリ・ツーリズムの展開により、今まで活用されていない農村地域が保有している文化的・歴史的資源を観光資源として活用することができる。

この二つの背景により、中国においてアグリ・ツーリズムが展開され始めたと考えられる。

1-1-2 中国におけるアグリ・ツーリズムの発展

馬ら（2007）の中国のアグリ・ツーリズムの発展に関する考察に基づき、中国におけるアグリ・ツーリズムの発展を三つの段階に分けた。

第Ⅰ段階：早期萌芽段階（1978年-1995年）。この段階では、国家がまだアグリ・ツーリズムに注目せず、平均可処分所得や余暇時間が少ないため、ニーズを持つ都市部住民の数も少なく、展開されたアグリ・ツーリズム施設はほぼ北京・上海などの大都市⁶近郊の農家が自発的に経営したものであった。

第Ⅱ段階：成長段階（1995-2005年）。この段階では、中国の都市化率、都市部の住民の収入や一人当たりの平均可処分所得が増加しつつあり、人々の消費傾向も変わりつつある。また、1995年5月からの週休二日制の推進により、短期滞在型の観光に対するニーズが高まった。そこで、大都市の近郊では、農家が自発的に経営する小規模観光施設以外、経営主体が企業の大規模アグリ・ツーリズム観光施設が大量に展開され始めた。

第Ⅲ段階：高速発展段階（2006年以降）。この段階では、中国の都市化率⁷や都市部住民の一人当たりの平均可処分所得がさらに増加し、エンゲル係数⁸も減少しつつあり（図1-2、図1-3）、アグリ・ツーリズムに対するニーズがさらに高まったと見られる。さらに、国家もアグリ・ツーリズムに注目し始め、アグリ・ツーリズムに関する様々な政策方針を公表

⁶ 閻ら（2001）により、都市部の住民が100万人を超えている都市を大都市と定義される。

⁷ 全人口に占める都市部の常住人口の割合。

⁸ 家計の消費支出の中飲食費の占める割合のことで、値が低いほど生活水準が高いと見られる。

し始め、経営の規範化や大規模観光施設の大量展開を促進した。

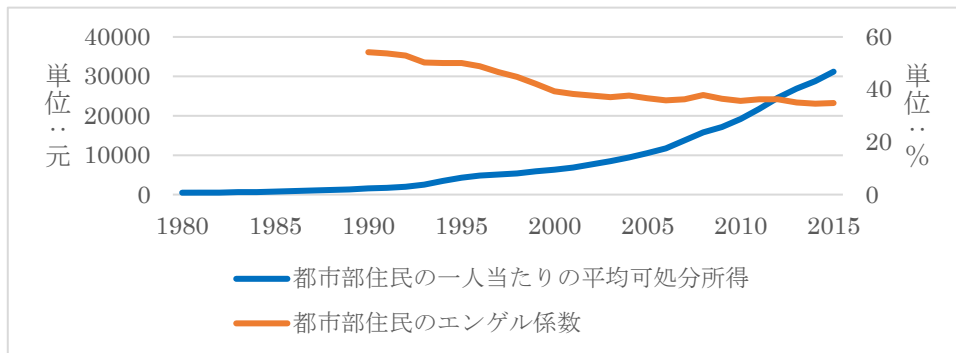


図 1-2 中国都市部住民の一人当たりの平均可処分所得と都市部住民のエンゲル係数推移

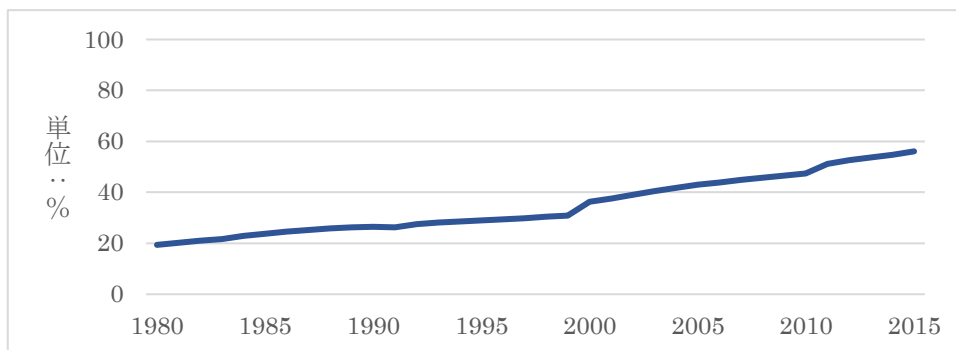


図 1-3 中国の都市化率推移

早期萌芽段階では、国家がまだアグリ・ツーリズムに注目せず、当時のアグリ・ツーリズム施設もほぼ都市近郊の農家が自発的に展開したものであったが、1998 年から、政府機関からアグリ・ツーリズムに関する様々な政策方針が公表され始めた。表 1-3 は中国の国家機関が公表したアグリ・ツーリズムに関する主な政策方針である。

表 1-3 アグリ・ツーリズムに関する主な政策方針

段階	公表時期	政策方針	公表機関
II	1998 年	「華夏城郷遊」の推進	中国国家観光局
	1999 年	「生態観光年間」の推進	中国国家観光局
	2001 年	『農業観光発展指導規範』の公表	中国国家観光局
	2005 年	『「農家楽」 ⁹ 経営規範』の公表	中国国家観光局
	2006 年	「農村観光年間」の推進	中国国家観光局
	2006 年	『農村観光発展の促進に関する指導意見』の公表	中国国家観光局
	2007 年	『全国農村観光発展の強力推進に関する通知』の公表	中国国家観光局、中国国家農業部
	2009 年	『全国農村観光発展概要(2009-2015)』の公表	中国国家観光局

⁹ 「農家楽」とは、農民が自宅の一部を客室に改装し、都市部の住民を招き、農家宿泊や農村料理を楽しませる観光活動である。

Ⅲ	2010年	『全国におけるアグリ・ツーリズムの展開及び農村観光模範県、模範点の創建に関する通知』の公表	中国国家観光局、中国国家農業部
	2015年	『改革創新力度の増大や農業近代化建設の加速に関する若干意見』の公表	中共中央、国務院
	2016年	『アグリ・ツーリズムの強力発展に関する指導意見』の公表	中国国家農業部

1998年、国家観光局は農村観光を促進する「華夏城郷遊」を推進し始めた。「華夏城郷遊」のスローガンは「農家の料理を食べ、農家に住み、農作業を体験し、農村風景を楽しむ」であり、農村や農業資源が観光資源として認識され始めた。また、1999年の「生態観光¹⁰年間」の推進は「農村の環境、文化や景観を守りつつ、農村での観光活動を展開する」を目標とし、アグリ・ツーリズムの発展を促進した。2001年に公表された『農業観光発展指導規範』や2005年に公表された『「農家楽」経営規範』は、当時の小規模観光施設の乱立を問題視し、アグリ・ツーリズム観光施設の規範化を進めるよう呼びかけた。2006年に公表された『農村観光発展の促進に関する指導意見』や2007年に公表された『全国農村観光発展の強力推進に関する通知』は、アグリ・ツーリズムの更なる展開を目的とし、「農村観光百千万工程」（全国範囲内で100の特色県、1000の特色郷や10000の特色村を建設し、伝統的な農業の構造を転変し、農民の収入を増加させ、農村の建設に貢献することを目的とするプロジェクト）を推進した。また、2007年1月1日に公表された『中央1号文件』¹¹では「現代農業を建設するためには、必ず農業の持つ多様な機能を開発し、農業の文化的、生態的、観光的価値を引き出す」との内容が記載されており、農業資源の観光的価値が国家レベルで認められたと考えられる。それ以降も多数の政策方針が公表され、特に2016年9月に公表された『アグリ・ツーリズムの強力発展に関する指導意見』は、中国におけるアグリ・ツーリズムの展開の意義、指導思想、基本的原則、主要目標と主要任務などを規定し、全国範囲におけるアグリ・ツーリズムの強力な展開を目指している。

中国国家農業部の統計データによると、2015年の時点で、全国におけるアグリ・ツーリズムや農村観光の観光客数が延べ人数で22億人を超え、観光産業全体の観光客数（延べ人数42.1億人）の53.4%を占め、営業収入が4400億元（約7.45万億円）に達し、観光産業全体の営業収入（3.42万億元、約57.91万億円）の12.9%を占め、従業員数が790万人を超え、観光産業全体の直接就業者数（2798万人）の28.2%を占めた。

¹⁰ 「生態観光」とは、エコツアーのことである。

¹¹ 中共中央、国務院が一年の最初に公表した通達のこと、国がその年一番重要視している分野を取り上げている。

1-2 既往研究の動向

これまで、中国のアグリ・ツーリズムに関する研究が多数なされており、中国のアグリ・ツーリズムの展開の背景と意義を捉えた研究（郭・王, 2000；蘆ら, 2001；張, 2007）、アグリ・ツーリズムの機能を捉えた研究（楊, 2010；郭, 2007）、中国のアグリ・ツーリズムの今後の発展傾向に関する研究（盛, 2006；呂ら, 2007）、中国のアグリ・ツーリズムに存在している経営面、計画面、法律面の問題を取り上げた研究（孫ら, 2007；陳, 2007；郭, 2007）、中国と海外のアグリ・ツーリズム観光施設を比較する研究（張, 2006）などがある。しかし、これらの研究はほぼ国全体に着目する研究か、大都市周辺の事例だけを取り上げた研究である。

趙（2015）によると、アグリ・ツーリズムの展開は様々な資源の量に制約されている。

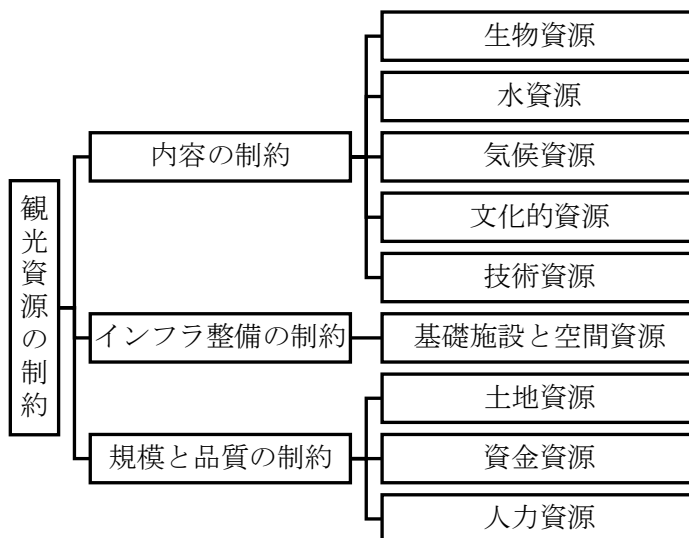


図1-4 アグリ・ツーリズムの展開を制約する要素

中国では、水資源、気候資源などの上図に示した各要素における地域差が激しく、国全体や大都市周辺だけに着目すると、一面的になる恐れがある。さらに、国内各地域の経済発展状況・都市部住民の平均収入や都市化率が異なるため、各省・各市住民のアグリ・ツーリズムに対するニーズや観光施設の利用傾向に違いがあると考えられる。従って、今後のアグリ・ツーリズムの展開には、各地域の現状を把握し、その地域の状況に応じた施策が必要だと考えられる。

1-3 研究の目的

本研究では、農業が盛んで、都市化率と都市部住民の平均可処分所得ともに全国平均を下回り、都市部住民の半分以上は農村出身の河北省石家荘市を調査対象地とし、アグリ・ツー

リズムの展開過程、経営側の経営意識及び利用者側の利用傾向を調査・分析し、石家庄市におけるアグリ・ツーリズムの展開過程、観光施設の現状と存在している課題を明らかにすることを目的とする。

1-4 研究の方法

本研究は主に三つの調査内容があり、それぞれ文献調査、現地調査、聞き取り調査やアンケート調査の四つの手法を使い、調査を行った。

表 1-4 本研究の調査内容と使用手法

調査内容	使用手法
①河北省及び石家荘市におけるアグリ・ツーリズムの展開過程の把握	<ol style="list-style-type: none"> 1. 省・市の政府機関が公表した政策方針の収集と解説 2. 省統計局が公表した農業に関する統計データの収集 3. 河北省・石家荘市のアグリ・ツーリズムに関わる研究機関や政府機関の職員に対するインタビュー調査 4. アグリ・ツーリズム観光施設の建設候補地の選定考察の同行
②周家荘郷観光摘み取り園の実態の把握	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周家荘郷観光摘み取り園におけるシーズン・シーズン外の二回の現地調査 2. 市内の複数のアグリ・ツーリズム観光施設における現地調査 3. 石家荘市市内のアグリ・ツーリズム観光施設に関する基本資料の収集 4. 周家荘郷観光摘み取り園の経営責任者への聞き取り調査
③周家荘郷観光摘み取り園の利用者の傾向及び満足度の把握	周家荘郷観光摘み取り園の利用者へのプレアンケート調査とアンケート調査

また、アンケート調査の結果を数値化し、Microsoft Excel 2013 と IBM SPSS Statistics 24 を使い、主成分分析と相関分析を行った。

第二章 河北省及び石家荘市におけるアグリ・ツーリズムの展開過程の把握

2-1 本章の目的と方法

本章では、河北省及び石家荘市におけるアグリ・ツーリズムの展開過程や現状を明らかにすることを目的とする。

また、目的達成のために、表2-1で示す四つの調査を行った。

表2-1 本章の研究方法

内容	実施日時
省・市の政府機関が公表した政策方針や統計データの収集と解読	常時
河北省観光計画発展研究院 ¹² 院長・副院長へのインタビュー調査	2015年11月
河北省観光局の職員への聞き取り調査	2015年11月
石家荘市救貧開発領導小組が主催したアグリ・ツーリズム施設の建設候補地の選定考察の同行	2016年9月

2-2 河北省の概況

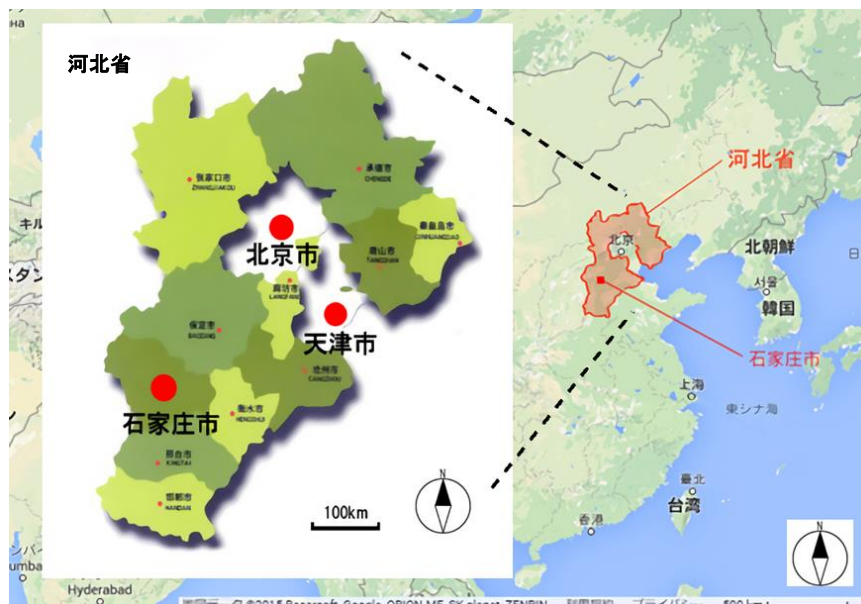


図2-1 河北省と石家荘市の位置 (Google マップに基づいて作成)

河北省は華北平原に位置し、農業生産の盛んな省である。面積は18.88万km²で、その中の約35%は農地である。人口は7383.75万人(2014年)である。また、ナシ・ナツメ・リンゴ

¹² 国家級の観光計画設計機構である。責任者である劉院長は河北省観光局の元副局長であり、河北省・石家荘市の観光産業に関する多数の政策方針の作成に関わった。

をはじめ、多数の優良品種が栽培され、中国東部の有名な果物の原産地である。さらに、河北省は首都である北京や経済の急速な発展を遂げる天津に隣接している。

省内の主な産業が農業であるため、河北省の都市化率は全国平均水準を下回っている。2015年の時点で、河北省の都市化率が初めて50%を超えた（表2-2）。また、全国平均水準を下回っているが、河北省の都市部住民の一人当たりの平均可処分所得も増加しつつある。（表2-3）

表2-2 全国と河北省の都市化率の比較（単位：％） (1元=約17円)

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
都市化率（全国）	45.7	46.6	47.5	51.3	52.6	53.7	54.8	56.1
都市化率（河北省）	41.9	43.7	44.5	45.6	46.8	48.1	49.3	51.3

表2-3 全国と河北省の都市部住民の平均可処分所得の比較（単位：元） (1元=約17円)

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
平均可処分所得（全国）	17,175	19,109	21,810	24,565	26,955	28,844	31,195
平均可処分所得（河北省）	14,718	16,263	18,292	20,543	22,580	24,141	26,152

河北省の観光産業全般における観光客数（延べ人数）と収入の推移は表2-4の通りである。表2-4により、河北省の観光客数及び全省の観光収入に関しては増加傾向が見られる。

表2-4 河北省の観光客数と収入推移 (1元=約17円)

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
観光客数（単位：億人）	1.20	1.50	1.87	2.30	2.71	3.15	3.72
観光収入（単位：億元）	700	915	1,221	1,588	2,010	2,561	3,434

また、2015年の時点で、河北省のアグリ・ツーリズムを主な経営内容とする大型観光施設は計287カ所で、アグリ・ツーリズムを利用する観光客数が延べ人数で3600万人を超え、観光収入が65億元に達した。河北省のアグリ・ツーリズムは省内の観光産業全般の発展と共に発展している（河北省農業環境保護監視センター、2016）。

さらに、河北省農業庁が2015年10月に『河北省農業庁のアグリ・ツーリズムの高速発展に関する意見』を公表し、河北省におけるアグリ・ツーリズムの展開の重要な意義、全体的要求や基本原則について詳しく述べており、今後の省内のアグリ・ツーリズムの更なる展開に拍車をかけた。『河北省農業庁のアグリ・ツーリズムの高速発展に関する意見』により、河北省農業庁は、「2017年までに、100個の大型アグリ・ツーリズム観光施設を

建設し、50 個の村をアグリ・ツーリズム観光用に改造し、30 個の高品質アグリ・ツーリズム観光路線を作り、全省のアグリ・ツーリズム観光客数を 1 億人まで増やし、観光収入を 2014 年の 44 億元から 200 億元まで増やす」を今後の目標としている。

2-3 石家荘市市内のアグリ・ツーリズム観光施設の現状と分類

石家荘市は河北省の省都であり、面積が 15848 km²で、7 つの区、1 つの鈇区、3 つの県級市、11 つの県に分かれている。人口は約 1007 万人で（2015 年 5 月の時点）、都市部の人口が 430 万人を超えている。河北省観光局の統計データによると、2014 年の石家荘市の観光産業全般における観光客数が延べ人数で 5778.6 万人（2013 年と比べ+18.6%）を超え、観光収入が 432.2 億元（2013 年と比べ+31.7%）に達し、市内の観光産業は拡大されつつあると考えられる。また、石家荘市は華北地区の交通拠点であるため、交通が便利で、北京・天津からの観光客も期待される。

河北省や石家荘市におけるアグリ・ツーリズムは 1990 年代後半から展開され始めて、北京・上海などの大都市よりやや遅れた。一方、省内・市内の農業資源が豊富で、アグリ・ツーリズムの展開に適しているため、多くのアグリ・ツーリズム観光施設が整備・建設された。

聞き取り調査や現地調査に基づき、経営主体、規模と経営内容の違いにより、石家荘市市内のアグリ・ツーリズム観光施設を二つの経営タイプに分けた。（表 2-5）

表 2-5 石家荘市市内のアグリ・ツーリズム観光施設のタイプ分け

	経営主体	施設数	経営形態
直接経営タイプ	農家	多い	シンプルな摘み取り園、「農家楽（農村の食事と生活を体験する観光形式）」など
間接経営タイプ	企業	やや少ない	大規模な複合観光施設 ¹³
	政府	少ない	大規模な複合観光施設で、河北省の模範観光施設として建設されたケースが多い

直接経営タイプの観光施設はほぼ早期萌芽段階でよく見られた農家が自発的に経営している小規模な観光施設である。主な例として、摘み取りを経営内容とする摘み取り園と農村料理・農村宿泊を経営内容とする「農家楽」が挙げられる。図 2-2 は 1990 年代に開園された石家荘市市内のシンプルな摘み取り園である。このような摘み取り園はほとんど農家が自家のビニールハウスを都市部からの観光客に開放し、果物や野菜を自由に摘み取って

¹³ 本研究では、経営面積が 10ha 以上で、複数の経営内容を持つ観光施設を大規模な複合観光施設とする。

もらい、入り口で重量を測り、金をもらうという経営形式である。また、「農家楽」は農民が自家の住宅の一部を食堂や客室に改造し、栽培した農作物や所有している家畜を食材として観光客に農村料理を提供し、客室に泊まってもらうという経営形式である。直接経営タイプの観光施設は短期間で農民の収入を大きく増加させることができ、一時期全国範囲において大量展開されたが、開発規模の制限により、2000年代前半からの大規模な観光施設の大量展開により衝撃を受け、現在は減少する傾向が見られる（孫ら、2007）。



図2-2 石家荘市近郊に位置する農家主体のイチジク摘み取り園（撮影：筆者）

左図：観光客は農民からビニール袋を受け取り、イチジクを摘み取ることができる。

中図：イチジク以外、ホウレンソウやダイコンなども栽培され、自由に摘み取ることができる。

右図：筆者が摘み取ったイチジク。摘み取った後、入り口で重量を測り、代金を支払う。



図2-3 周家荘郷観光摘み取り園の園内風景（撮影：筆者）

左図：子供と一緒にナシの摘み取りを楽しむ利用者。

中図：園内の観光客が多く、道路や街路樹なども整備されている。

下図：園内にある食堂。約400人が同時に農村料理を賞味することができる。

間接経営タイプの観光施設は2000年代前半から展開され始めた。図2-3は典型的な間接経営タイプの観光施設内である。主な経営内容の一部は直接経営タイプと重複するが、間接経営タイプの観光施設は規模が大きく、一つの施設において複数かつ多様な経営内容を持ち、また、衛生面・景観面やインフラの整備も直接経営タイプより遥かに進んでおり、より都市部からの観光客のニーズを満たせると考えられる(孫ら, 2007)。河北省の場合、アグリ・ツーリズムの発展段階(1995-2005年)の時点の間接経営タイプの観光施設はほぼ経営主体が企業の観光施設で、2000年代後半から、経営主体が政府の観光施設が初めて参入したという。また、河北省観光局の職員に対する聞き取り調査により、ほぼ全ての間接経営タイプの観光施設は農産物の摘み取りを主な経営内容としている。

2-4 小括

本章では、河北省の概況、石家荘市におけるアグリ・ツーリズムの展開及び石家荘市市内のアグリ・ツーリズム観光施設の現状を明らかにした。また、調査により、以下の情報が分かった。

- ① 河北省は中国のほかの省と比べ農業が盛んな省であり、農地面積が大きく、農業資源が優れている。
- ② 近年では、河北省と石家荘市の観光産業は拡大しつつある傾向が見られる。また、河北省農業庁などの政府機関は現在アグリ・ツーリズムの高速発展を全省の経済発展における重要な目標の一つとし、アグリ・ツーリズム観光施設の展開に関する明確な目標を公表した。
- ③ 石家荘市では、1990年代後半から2000年代前半までは農家主体の直接経営タイプのアグリ・ツーリズム観光施設が大量に展開され、当時のアグリ・ツーリズムの主流となったが、現在では、経営主体が政府や企業の間接経営タイプのアグリ・ツーリズム観光施設が主流になっている。また、ほぼ全ての間接経営タイプの観光施設は農産物の摘み取りを主な経営内容としている。

以上の情報により、石家荘市では、アグリ・ツーリズムがある程度展開されており、また、これからも発展しつつあるということが分かった。

第三章 周家莊郷観光摘み取り園の実態の把握

3-1 本章の目的と方法

本章では、石家莊市市内のアグリ・ツーリズム観光施設である周家莊郷観光摘み取り園の現状、二つの同業他施設との比較、ハード面・ソフト面における問題点やその他の課題をそれぞれまとめ、周家莊郷観光摘み取り園の実態を把握することを目的とする。

また、目的達成のために、表3-1で示す四つの調査を行った。

表3-1 本章の研究方法

内容	実施日時
市内のアグリ・ツーリズム観光施設に関する基本資料の収集	常時
周家莊郷観光摘み取り園におけるシーズン・シーズン外の二回の現地調査	2015年11月 2016年9月
周家莊郷観光摘み取り園の経営責任者への聞き取り調査	2016年9月
市内の複数のアグリ・ツーリズム観光施設における現地調査	2016年9月

3-2 周家莊郷観光摘み取り園の実態

3-2-1 周家莊郷観光摘み取り園の概要と現状

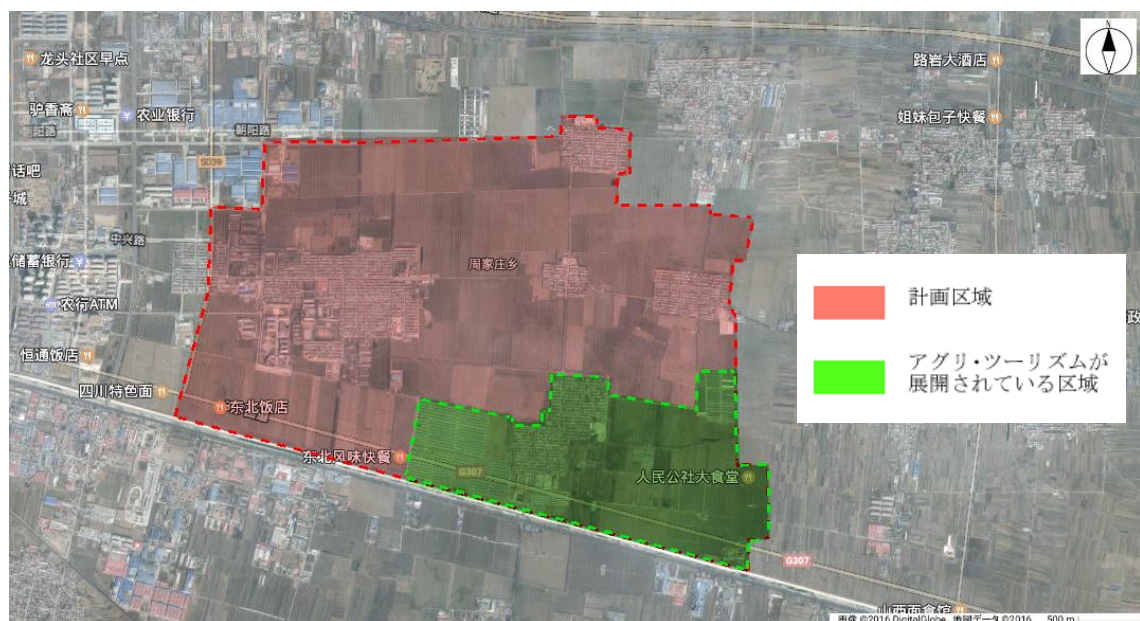


図3-1 周家莊郷観光摘み取り園の位置 (Google マップに基づいて作成)

周家莊郷観光摘み取り園は晋州市¹⁴郊外の周家莊郷に位置する大規模なアグリ・ツーリズム

¹⁴ 晋州市は、石家莊市市内の県級市である。

ム観光施設である。経営主体が周家荘郷政府で、計画区域¹⁵の面積が 10.3 km²である。従業員は 158 人で、全て現地の農民である（2016 年 9 月調べ）。事前調査として、石家庄市市内の主要なアグリ・ツーリズム観光施設を比較した結果、経営主体が安定で、規模が一番大きく、統計資料が保存されている周家荘郷観光摘み取り園を主な調査対象として選定した。

周家荘郷は河北省の重要な果物産地である。面積は 14.02 km²で、人口は約 13068 人であり（2015 年調べ）、郷内の農地面積は全郷面積の 8 割を占めている。郷政府は 2008 年から周家荘郷の農業資源を観光資源として活用する方針を立て、4000 万元（約 6.7 億元）を投資し、多数の果物・野菜の摘み取り園、キャパシティが約 400 人のレストラン、郷歴史記念館、民俗文化博物館、展望スペース、面積が 4000 m²と 7000 m²の二つの大型駐車場や公共トイレなどの施設を建設した。2013 年、周家荘郷観光摘み取り園に来園した観光客数が延べ人数で 30 万人を超え、観光収入が 1500 万元を超えた。

趙（2015）により、中国のアグリ・ツーリズム観光施設の展開を大きく影響する要素として、内容の優位性（生物資源、水資源、気候資源など）、インフラ整備の優位性（観光施設周辺の基礎施設と空間資源）及び規模と品質の優位性（土地資源、資金資源、人力資源）が挙げられる。本節では、現地調査や聞き取り調査により、周家荘郷観光摘み取り園におけるアグリ・ツーリズムの展開を制約する様々な要素の優位性について調べ、それぞれの現状をまとめた。

(1)内容の優位性（生物資源、水資源、気候資源など）

アグリ・ツーリズムは農業資源を観光資源として活用する観光活動であるため、生物資源、水資源、気候資源はアグリ・ツーリズムの展開を制約する重要な要素だと考えられる。周家荘郷観光摘み取り園は滹沱河河岸の肥沃で平らな沖積平野に位置し、土壌は通気性が良い砂質土で、地下水が豊富で、野菜や果物（特に空気に対する要求度が大きいブドウ、モモ、ナシなど）の栽培に適している。また、近年では、周家荘郷は中国原産の品種以外、海外原産の成熟期の異なる品種を積極的に導入し、摘み取りできる時期を増やした。ブドウだけでも、玫瑰香（ヨーロッパ原産）、克瑞生（アメリカ原産）、白馬乳（西アジア原産）、美人指（日本原産）、金手指（日本原産）などの海外原産の品種が導入されている。

(2)インフラ整備の優位性（観光施設周辺の基礎施設と空間資源）

周家荘郷観光摘み取り園は晋州市（石家荘市に所属する県級市）の郊外に位置し、晋州市都市部との距離は 2km で、石家荘市都市区との距離は 45km で、辛集市（石家荘市に所属する県級市）との距離は 14km で、省内他市である衡水市との距離は 60km で、北京との

¹⁵ アグリ・ツーリズムが展開されている区域は 2016 年 9 月の時点でまだ計画区域の一部のみである。

距離は約 300km である。また、石黄高速道路、307 国道、衡井公路などの高速道路、国道や省道へのアクセスも便利である。(図 3-2)

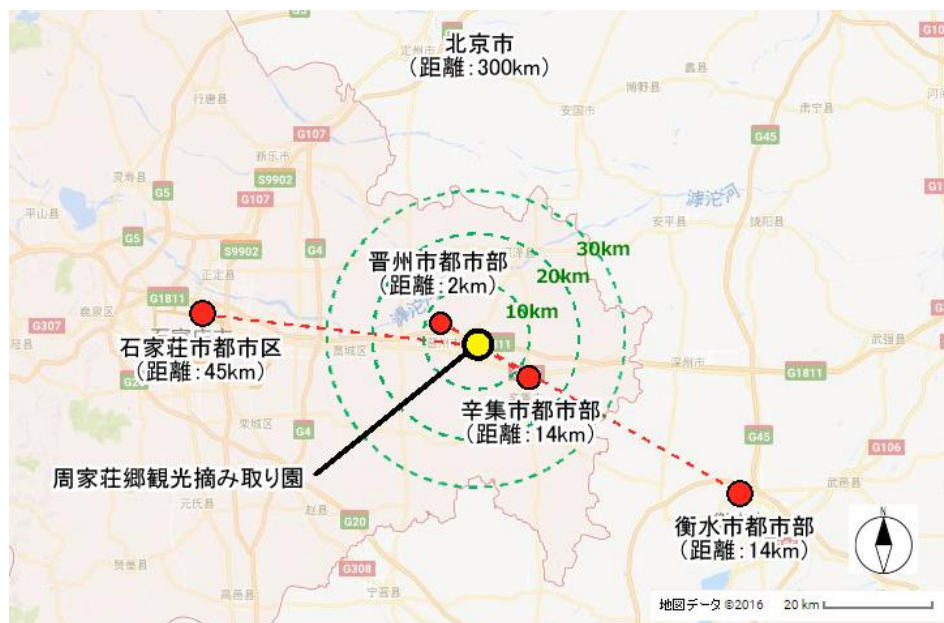


図 3-2 周家莊郷観光摘み取り園の交通状況 (Google マップに基づいて作成)

また、周家莊郷では、上下水道・送電網・通信施設がよく整備されており、一般的なインフラ整備は完成していると考えられる。

(3)規模と品質の優位性 (土地資源、資金資源など)

周家莊郷観光摘み取り園の計画面積は 10.3 km²で、石家莊市市内の大規模なアグリ・ツーリズム観光施設の中で計画面積が一番大きい施設である。

また、周家莊郷観光摘み取り園の経営主体は周家莊郷政府である。周家莊郷は河北省の中で最も農業の近代化が進んでいる地区の一つで、「全国先進基層組織」「全国先進文明村鎮」「中国郷鎮の星」などの称号を持っており、国務院からも表彰されたことがある。また、財政面も安定しており、2010年の時点で、全郷における純収入は約 1.5 億元に達し、郷民の一人当たりの純収入が 11368 円で、全国農村住民の平均純収入の 5919 元を大きく上回った。郷の生産面・財政面が安定しているため、周家莊郷観光摘み取り園への資金供給や運営も安定していると考えられる。

さらに、周家莊郷観光摘み取り園は河北省の省級農村観光模範施設と晋州市の全市重点観光開発項目であり、河北省のアグリ・ツーリズム観光施設の模範例として知られている。周家莊郷政府も近年郷内の観光産業を推進しつつあり、周家莊郷観光摘み取り園の経営についても積極的に取り組んでいる。

3-3-2 市内の他施設との比較

周家荘郷観光摘み取り園以外、市内のアグリ・ツーリズム観光施設 A と観光施設 B において現地調査を行い、三施設の比較を行った。

(1) 基本情報の比較

表 3-3 周家荘郷観光摘み取り園とその他の施設の基本情報の比較

	周家荘郷観光摘み取り園	市内観光施設 A	市内観光施設 B
運営開始日	2008 年 6 月	2015 年 8 月	2010 年 8 月
面積	1030ha ¹⁶	45ha	100ha
経営主体	周家荘郷政府	私営企業	私営企業
従業員の構成	農民のみ	ほとんどが農民	ほとんどが農民

三施設の中、周家荘郷観光摘み取り園の運営開始日が一番早く、面積が一番大きい。また、A 施設と B 施設の経営主体はどれも石家荘市市内の私営企業である。

(2) 経営内容の比較

表 3-4 周家荘郷観光摘み取り園とその他の施設の経営内容の比較

	周家荘郷観光摘み取り園	市内観光施設 A	市内観光施設 B
摘み取りの種類	<u>ナシ</u> 、 <u>リンゴ</u> 、 <u>モモ</u> 、 <u>イチゴ</u> 、 <u>ブドウ</u> <ラッカセイ>	<u>ナシ</u> 、 <u>リンゴ</u> 、 <u>モモ</u> 、 <u>ブドウ</u> 、 <u>イチゴ</u> <キュウリ>	<u>ナシ</u> 、 <u>リンゴ</u> 、 <u>モモ</u> 、 <u>ブドウ</u> 、 <u>イチゴ</u> <ナツメ>
摘み取り以外の経営内容	<u>レストラン</u> 、 <u>民俗展示</u> 、 <u>ミニ動物園</u> 、 <u>養鶏場</u> 、 <u>花見イベント</u> 、 <u>馬車</u>	<u>レストラン</u> 、 <u>民俗展示</u> 、 <u>釣り</u> 、 <u>サバイバルゲーム</u> 、 <u>宿泊</u>	<u>レストラン</u> 、 <u>民俗展示</u> 、 <u>市民農園</u> 、 <u>ミニ動物園</u>

三施設の主な経営内容は全部摘み取りで、摘み取りの種類もほぼ同じである。また、摘み取り以外の経営内容も類似している。

(3) 摘み取り以外の販売物の比較

表 3-5 周家荘郷観光摘み取り園とその他の施設の販売物の比較

販売物	周家荘郷観光摘み取り園	市内観光施設 A	市内観光施設 B
初級農産物 ¹⁷	<u>野菜</u> 、 <u>果物</u> 、 <u>穀物</u> 、 <u>卵</u>	<u>野菜</u> 、 <u>果物</u> 、 <u>穀物</u> 、 <u>卵</u>	<u>野菜</u> 、 <u>果物</u> 、 <u>卵</u>
農産物加工品	市販の加工品のみ (春雨など)	ジュース、ジャム、干し物など	ワイン、ジュース、食用油、豆腐など

¹⁶ 1030ha は計画面積であり、実際にアグリ・ツーリズムが展開されている区域の面積は 2016 年 9 月の時点で約 200ha である。

¹⁷ 加工されていない栽培業、畜産業、漁業の生産物のこと。

三施設において、摘み取り以外の販売物の中で、初期農産物の販売種類はほぼ同じである。また、農産物加工品の場合、周家荘郷観光摘み取り園では市販の加工品しか販売されていないが、施設 A と B では、施設内で生産された農産物を原材料とするジュース、ジャムやワインなどの農産物加工品が販売されている。

(4) 消費の比較

表 3-6 周家荘郷観光摘み取り園とその他の施設の消費水準の比較

		周家荘郷観光 摘み取り園	市内観光施設 A	市内観光施設 B	批発価格 ¹⁸ (2016 年平均)
入園料		20 元	20 元	30 元	-
摘 み 取 り	ナシ	10 元/500g	8 元/500g	10 元/500g	1.2-2.2 元/500g
	リンゴ	15 元/500g	15 元/500g	15 元/500g	0.8-2 元/500g
	モモ	10 元/500g	10 元/500g	15 元/500g	2-4 元/500g
	ラッカセイ	7 元/500g	-	-	3.5-5 元/500g
	イチゴ	30 元/500g	30 元/500g	30 元/500g	8-16 元/500g
	ブドウ ¹⁹	25-40 元/500g	20-40 元/500g	25-40 元/500g	6-12 元/500g
	キュウリ	-	8 元/500g	-	2.3-4 元/500g
	ナツメ	-	-	10 元/500g	5-8 元/500g
食事代		30-50 元/人	30-50 元/人	30-50 元/人	

調査により、三施設の入園料、摘み取りの値段や食事代の消費水準には大きな違いが見られなかった。また、農産物の摘み取りの値段は同じ種類の農産物の批発価格の約 2-5 倍である。

3-3-3 周家荘郷観光摘み取り園における問題点

3-2-1 では、周家荘郷観光摘み取り園の内容・インフラ整備・規模と品質における優位性をまとめた。さらに、現地調査、聞き取り調査、同業他施設との比較やアンケート調査の結果²⁰により、周家荘郷観光摘み取り園には以下の問題点が存在していると考えられる。

(1) 商品の付加価値が低い

周家荘郷観光摘み取り園は大規模なアグリ・ツーリズム観光施設であるが、経営陣は全員農民であるため、経営主体が企業の施設と比べて、ブランド意識が低く、商品の付加価値も

¹⁸ 批発価格とは、農民が流通業者に農産物を提供する時の価格である。データは中国国家商務部より。

¹⁹ ブドウは品種によって値段が異なる。

²⁰ アンケート調査の詳細は第 4 章参照（本章では結果の一部のみを引用）

掘り下げていないと考えられる。

施設 A と施設 B では、摘み取り用の袋には観光施設の名前とロゴが印刷されており、農産物加工品も経営主体の企業のブランドの商品として売られているが、周家荘郷観光摘み取り園では無地のビニール袋のみが提供されており、入園チケット以外、施設の名前や情報が記載される物はなかった。また、表 3-5 により、摘み取り用の農産物以外、園内で販売されている商品はほぼ初級農産物で、市販のもの以外の農産物加工品が全く販売されていないため、収益が限られており、一人当たりの消費金額にも影響していると考えられる。

(2)他施設との差別化ができていない

石家荘市市内の大型アグリ・ツーリズム観光施設の大半は摘み取りを主な経営内容としている。表 3-4 や表 3-5 により、周家荘郷観光摘み取り園と市内の他のアグリ・ツーリズム観光施設の経営内容がほぼ同じで、さらに、摘み取りできる農産物の種類も類似で、他施設との明らかな違いが見られなかった。

(3)園内ハード面整備の不足

石家荘市では、観光地や観光施設における公衆トイレの設置数に関する規定はないが、中国国内他市の場合²¹、観光地や観光施設の公衆トイレの適正な誘致距離半径は 250m で、便器数は 1 日当たりの利用者数の 1-2% と規定されている。2016 年 9 月の時点で、周家荘郷観光摘み取り園でアグリ・ツーリズムが展開されている面積は 200ha を超えたが、公衆トイレは二カ所のみを設置され、さらに、1 つの公衆トイレにおける便器数は男子トイレ 4 つ (その中小便器 2 つ) ・女子トイレ 3 つである。聞き取り調査により、シーズン中の休日では、毎日の利用者数は 2000-3000 人前後であるため、公衆トイレの数も便器数も不足していると考えられる。

また、2016 年 9 月に実施されたアンケート調査により、園内環境 (衛生面)、看板や案内の分かりやすさや休憩スペースに関する満足度が低かったため、ハード面の整備は必要だと考えられる (満足度得点は p28 参照)。

(4)インフラ整備の不足

3-2-1 では、周家荘郷観光摘み取り園のインフラ整備の優位性をまとめたが、現地調査や聞き取り調査により、インフラ整備の不足が見られた。石家荘市市内や河北省他市、北京、天津からのアクセスが便利だが、高速道路、国道や省道の出口から周家荘郷観光摘み取り園の入口までの道路の道幅は約 3.5m で、逆方向の車とすれ違うことができない。また、周家荘郷郷内の道路も道幅が狭く、車同士のすれ違いがほぼ不可能である。この現状は「最後の 1 キロ問題」として石家荘市交通局に問題視されているため、解決する必要があると考えられる。

²¹ 深セン市市場監管局『観光景区安全管理規範』より

(5) 従業員の専門能力の不足

2016年9月の時点で、周家荘郷観光摘み取り園では158人の従業員がいるが、従業員は全員農民出身で、八割以上の従業員の最終学歴は小学か中学であり、大卒以上の従業員がいなかった。2016年4月に実施したプレアンケート調査では、「あなたが周家荘郷観光摘み取り園に対してもっとも不満のある点はなんですか」という質問に対し、「従業員が農作物についてうまく説明できない」「従業員とまともな交流ができない」などの従業員に関する不満な点を挙げたグループは7グループあり（全42グループ）、従業員に対する教育が必要だと考えられる。

(6) 新興観光施設の展開による客層の流出

周家荘郷観光摘み取り園において、子連れや学生の観光客は数年前から減少傾向であることが分かった。責任者への聞き取り調査により、その原因の一つは市内の新興観光施設の展開であると考えられる。

2010年代前半から、石家荘市では数カ所にてメインターゲットを小さい子供や学生とする大型遊楽施設²²が展開され始めた。大型遊楽施設の展開により、これまでアグリ・ツーリズム観光施設を利用していた子連れや学生の観光客の一部は遊楽施設に移動したと考えられる。

3-3 小括

本章では、周家荘郷観光摘み取り園や二カ所の同業他施設の現状を明らかにした。調査により、周家荘郷観光摘み取り園には以下の強みと課題があると考えられる。

表3-7 周家荘郷観光摘み取り園の強みと課題

強み	<ol style="list-style-type: none">1. 農業資源が豊富で、アグリ・ツーリズムの展開に適している。2. 郷までのアクセスが便利で、基本的なインフラが整備されている。3. 規模が大きく、経営主体の財政面が安定している4. 政府機関から注目されており、模範施設として注目されている。
課題	<ol style="list-style-type: none">1. 商品の付加価値が低く、収益が限られている。2. 同業他施設との経営内容が類似で、差別化ができていない。3. 公衆トイレなどの園内のハード面の整備が不足である。4. 施設周辺のインフラ整備がうまく行われていない。5. 従業員に対する教育が不足である。6. 新興観光施設の展開により、客層が流出している。

本章の調査により、周家荘郷観光摘み取り園は内容面、インフラ整備面や規模と品質面において優位性を持っているが、内部の課題及び外部からの脅威が存在しているということが分かった。

²² 具体例として、遊園地やテーマパークなどが挙げられる。

第四章 周家莊郷観光摘み取り園の利用者の傾向及び満足度の把握

4-1 本章の目的

本章では、周家莊郷観光摘み取り園にて実施したアンケート調査を集計・分析することにより、周家莊郷観光摘み取り園の利用者の基本情報・傾向・満足度及び各要素の関連性を考察することを目的とする。

4-2 アンケート調査の概要

本研究は、下調べを目的とするプレアンケート調査を実施し、プレアンケート調査、聞き取り調査や現地調査の結果を踏まえて本調査のアンケートを作成し、2016年9月に本調査を実施した。

表4-1 アンケート調査の概要

プレアンケート調査	アンケート調査（本調査）
実施日：2016年4月24日（日）	実施日：2016年9月10日（土・祝）
実施場所：周家莊郷観光摘み取り園	実施場所：周家莊郷観光摘み取り園
調査対象：イチゴ狩りが目的の利用者 42グループ（計117人）	調査対象：園内施設を利用する利用者（中学生以下の子供は除外）
質問形式：選択形式+記述形式	質問形式：選択形式
有効回答数：39枚	有効回答数：179枚

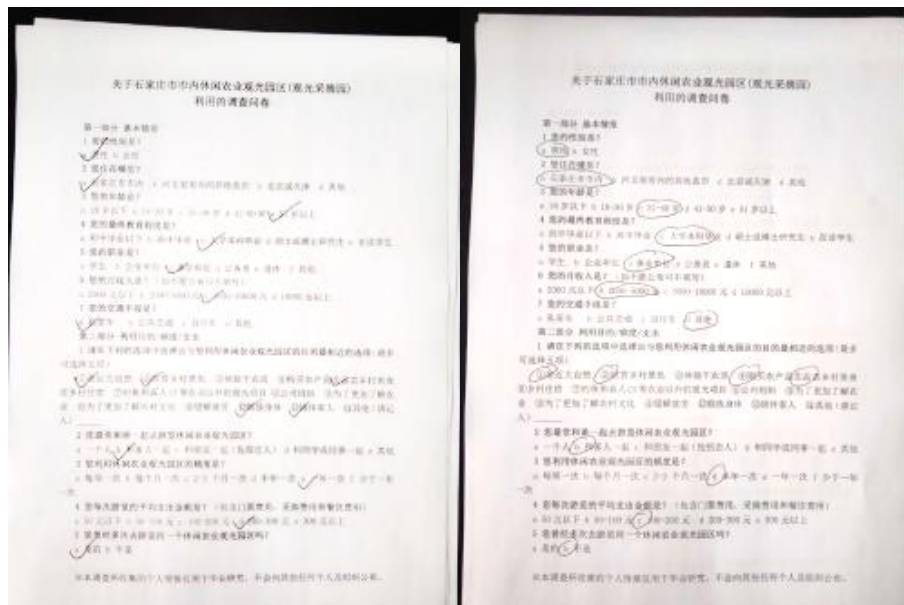


図4-1 実際に配られたアンケート

アグリ・ツーリズム観光施設の利用に関するアンケート

(日本語訳)

パート① 基本情報

- 1 あなたの性別は？
a 男性 b 女性
- 2 あなたはどこに住んでいますか？
a 石家荘市市内 b 河北省他市 c 北京・天津 d その他_____
- 3 あなたの年齢は？
a 18歳以下 b 18～30歳 c 31歳～40歳 d 41～50歳 e 51歳～
- 4 あなたの教育程度は？
a 中卒以下 b 高卒・高専 c 大卒 d 修士・博士
- 5 あなたの職業は？
a 学生 b 会社員（企業） c 会社員（事業） d 公務員 e 定年退職 f
その他_____
- 6 あなたの平均月収は？（Q5で「学生」を選んだ場合は飛ばしてください）
a 2000元以下 b 2000-5000元 c 5000-10000元 d 10000元以上
- 7 あなたの来園手段は？
a 自家用車 b 交通機関（タクシー含め） c 自転車・バイク d その他

パート② 来園目的・頻度・支出

- 1 あなたがアグリ・ツーリズム観光施設を利用する主な目的について、最も近いものを5つ以内選んでください。（周家荘郷観光摘み取り園に限らず）
①自然と親しむ ②農村景観を楽しむ ③農作業の体験 ④摘み取り・農産物の購入
⑤農村料理 ⑥農村宿泊 ⑦釣りやサバイバルゲームなどの摘み取り以外の観光項目
⑧会社の行事 ⑨農業を知るため ⑩農村文化を知るため
⑪ストレス発散・リラックス ⑫体を鍛える ⑬家族・友人と過ごす ⑭その他_____
- 2 あなたのグループ構成
a 1人 b 家族 c 友人 d 同僚 e その他_____
- 3 あなたはどのような頻度でアグリ・ツーリズム観光施設を利用していますか？（周家荘郷観光摘み取り園に限らず）
a 月二回以上 b 月一回 c 半年に二回 d 半年に一回 e 年一回 f 年一回以下

4 あなたのアグリ・ツーリズム観光施設の利用における一回当たりの消費金額（周家荘郷観光摘み取り園に限らず）

a 50元以下 b 50-100元 c 100-200元 d 200-300元 e 300元以上

5 あなたは以前周家荘郷観光摘み取り園を利用したことがありますか？

a はい b いいえ

パート③ 顧客満足度関連

（2016年4月に実施したプレアンケート調査や聞き取り調査・現地調査の結果に基づき要素を抽出し、質問を作成しました。）

- | | |
|------------------|---------------------|
| (1)アクセスしやすさ | (9)入園料の値段 |
| (2)環境（衛生面） | (10)農産物やその他のサービスの値段 |
| (3)環境（景観面） | (11)混み具合 |
| (4)通路の広さ・歩きやすさ | (12)農産物のおいしさ・新鮮さ |
| (5)看板・案内板の分かりやすさ | (13)安全面 |
| (6)駐車スペース | (14)商品の品揃え・サービスの種類 |
| (7)休憩スペース | (15)全体的な満足度 |
| (8)接客の態度 | |

※以上の要素を全て五段階（例：とても良い・やや良い・普通・やや不満・とても不満）を設定し、調査を実施しました。単純集計を行った時はそれぞれの数値を5点・4点・3点・2点・1点と設定した。

例：

1 この観光施設のアクセスしやすさについてどう思いますか？

a とても満足 b やや満足 c どちらでもない d やや不満 e とても不満

6 この観光施設の駐車スペースについてどう思いますか？

a とても満足 b やや満足 c どちらでもない d やや不満 e とても不満
f 該当しない（交通機関などを利用する利用者も多数いるため、選択肢を増やした）

9 園内スタッフの接客の態度についてどう思いますか？

a とても良い b やや良い c どちらでもない d やや悪い e とても悪い

4-3 アンケート調査の結果（単純集計）

アンケート調査の各項目の集計の結果は表4-2、4-3と4-4の通りである。

表4-2 集計結果①

	項目	人数	比率	項目	人数	比率
性別	男	72	40.2%	女	107	59.8%
住み	石家荘市市内	163	91.1%	河北省他市	5	2.8%
	北京・天津	10	5.6%	その他	1	0.6%
年齢	18歳以下	4	2.2%	18-30歳	34	19.0%
	31-40歳	60	33.5%	41-50歳	56	31.3%
	50歳以上	25	14.0%			
最終学歴	中卒以下	3	1.7%	高卒・高専	61	34.1%
	大卒	79	44.1%	修士・博士	17	9.5%
	在学中	19	10.6%			
職業	学生	19	10.6%	企業単位	35	19.6%
	事業単位	61	34.1%	行政単位	11	6.1%
	定年退職	4	2.2%	その他	49	27.4%
平均月収 (学生除外)	2000元以下	13	8.1%	2000-5000元	102	63.8%
	5000-10000元	35	21.9%	10000元以上	10	6.3%
来園手段	自家用車	79	44.1%	交通機関（タクシー含め）	48	26.8%
	自転車・バイク	31	17.3%	その他	21	11.7%
グループ構成	1人	0	0.0%	家族	104	58.1%
	友人	36	20.1%	同僚	36	20.1%
	その他	3	1.7%			
頻度	月2回以上	3	1.7%	月一回	20	11.2%
	2-3ヶ月に一回	51	28.5%	半年に一回	66	36.9%
	年一回	27	15.1%	年一回以下	12	6.7%
平均消費金額	50元以下	3	1.7%	50-100元	36	20.1%
	100-200元	63	35.2%	200-300元	53	29.6%
	300元以上	24	13.4%			
複数回利用	はい	92	51.4%	いいえ	87	48.6%

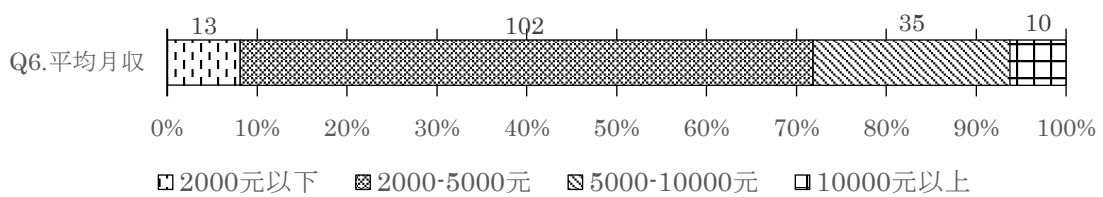
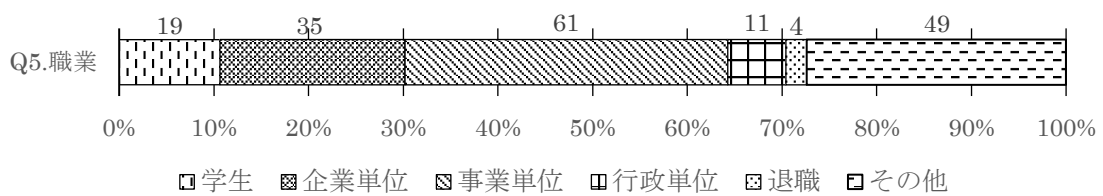
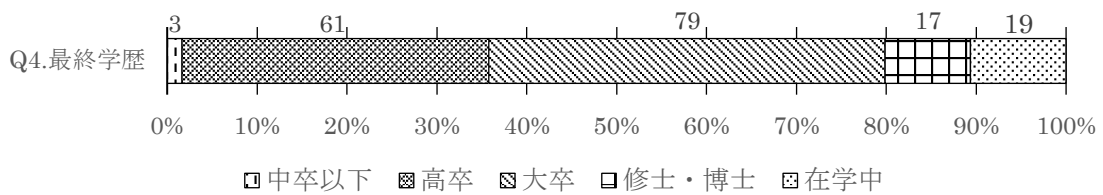
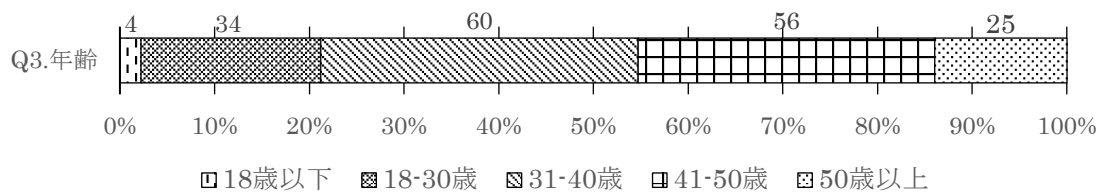
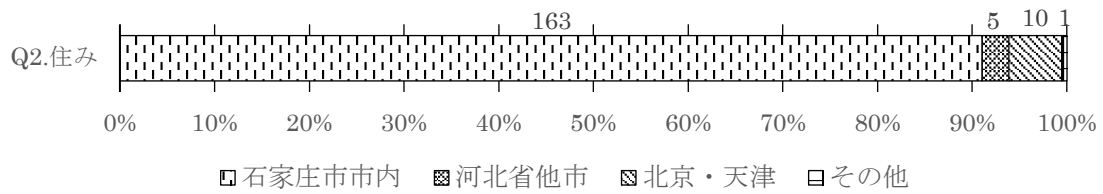
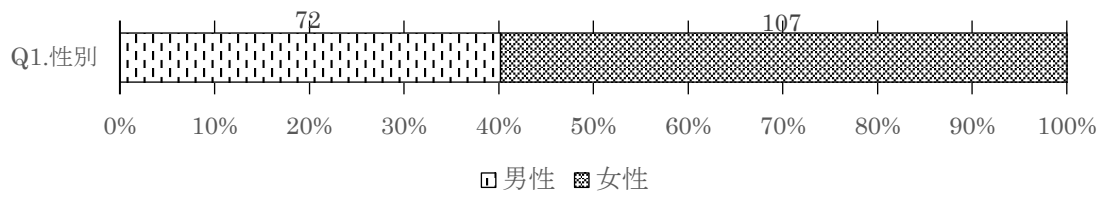
表 4-3 集計結果②

来園目的	選択数	比率	来園目的	選択数	比率
①自然と親しむ	146	81.6%	⑧会社の行事	37	20.7%
②農村景観を楽しむ	95	53.1%	⑨農業を知るため	3	1.7%
③農作業の体験	29	16.2%	⑩農村文化を知るため	7	3.9%
④摘み取り・農産物の購入	67	37.4%	⑪ストレス発散	49	27.4%
⑤農村料理の賞味	114	63.7%	⑫体を鍛える	49	27.4%
⑥農村宿泊	16	8.9%	⑬家族・友人と過ごす	85	47.5%
⑦摘み取り以外の観光項目	68	38.0%	⑭その他	0	0.0%

表 4-4 集計結果③

分類	項目	平均点	分類	項目	平均点
ソフト面関連	接客の態度	2.21	ハード面関連	アクセスしやすさ	3.12
	入園料の値段	3.02		環境（衛生面）	2.67
	農産物・サービスの値段	2.92		環境（景観面）	3.47
	混み具合	3.72		通路の広さ・歩きやすさ	3.25
	農産物のおいしさ・新鮮さ	3.97		看板や案内の分かりやすさ	2.40
	安全面	3.25		駐車スペース（除外分有）	3.37
	商品の品揃え・サービスの種類の豊富さ	3.58	休憩スペース	2.43	
			全般	全体的な満足度	3.70

パート①（基本情報）の単純集計結果は以下の通りである。



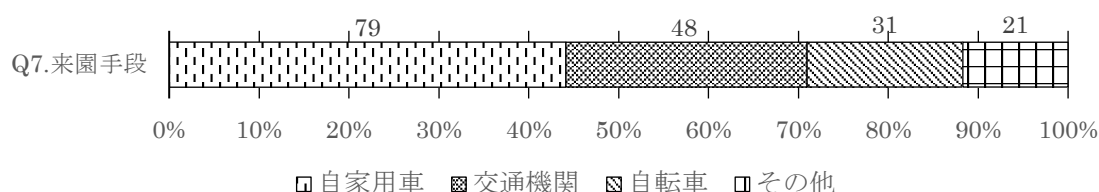


図4-2 パート①（基本情報）に関する回答（図内の数値は回答者の人数を示す）

パート①の単純集計の結果から、以下の傾向が見られた。

(1)性別

回答者の中、男性の比率が40.2%で、女性の比率が59.8%で、女性が男性より多い。

(2)住み

回答者の中、91.1%の人は石家荘市市内に住んでおり、河北省他市（2.8%）、北京・天津（5.6%）、他地区（0.6%）からの利用者が少ない。

(3)年齢

「31-40歳」と答えた回答者（33.5%）と「41-50歳」と答えた回答者（31.3%）が一番多く、回答者が30代～40代に集中する傾向が見られた。

(4)最終学歴

回答者の中、「大卒」と答えた回答者の比率（44.1%）が一番高く、「中卒以下」と答えた回答者が1.7%しかなく、大卒以上の回答者（53.6%）が全回答者の5割を超えたため、回答者は全体的に教育程度が高い傾向が見られた。（2010年中国の第六回人口普查により、河北省の大卒以上の学歴を持つ人口は全省人口の約8%である）

(5)職業

表4-5 中国の「単位（勤め先、職場）」の分類

分類	定義	特徴	具体例
企業単位	自ら損益の責任を負う生産性組織のことで、国営企業と私営企業に分かれている。	営利目的で、成果と価値はモノや通貨で判断する	メーカー、流通会社、商社、私立学校、私立出版社など
事業単位	政府が国有資産を利用し設立した社会的サービス組織。	非営利目的で、成果と価値はモノや通貨で判断できない	公立学校、公立出版社、国営テレビ局、公立病院など
行政単位	国家の行政を管理し、経済建設や文化建設を行い、公共秩序を維持する機関や組織。	国家機関	教育局、観光局、省・市政府など

中国の「単位（勤め先、職場の意味）」は企業単位、事業単位と行政単位に分かれており、それぞれの定義と特徴は表 4-5 の通りである。

「事業単位」と答えた回答者の比率が一番高く（34.1%）、全体的に企業単位と事業単位に集中する傾向が見られた。

(6)平均月収

「2000-5000 元（約 3.4-8.5 万円）」と答えた回答者の比率が一番高く（63.8%）、「5000-10000 元（約 8.5-17 万円）」と答えた回答者の比率は 21.9%で、「2000 元以下」（8.1%）や「10000 元以上」（6.3%）と答えた回答者が少ない。（石家荘市都市部住民の平均月収は 2015 年の時点で約 4800 元である）

(7)来園手段

「自家用車」と答えた回答者の比率が一番高く（44.1%）、交通機関やタクシーを利用した回答者は 26.8%で、自転車やバイクを利用した回答者は 17.3%である。また、「その他」と答えた回答者の中、「友人の車に乗せてもらった」と答えた人が 5 割を超えた。

パート②（来園目的・頻度・支出）の単純集計結果が以下の通りである。

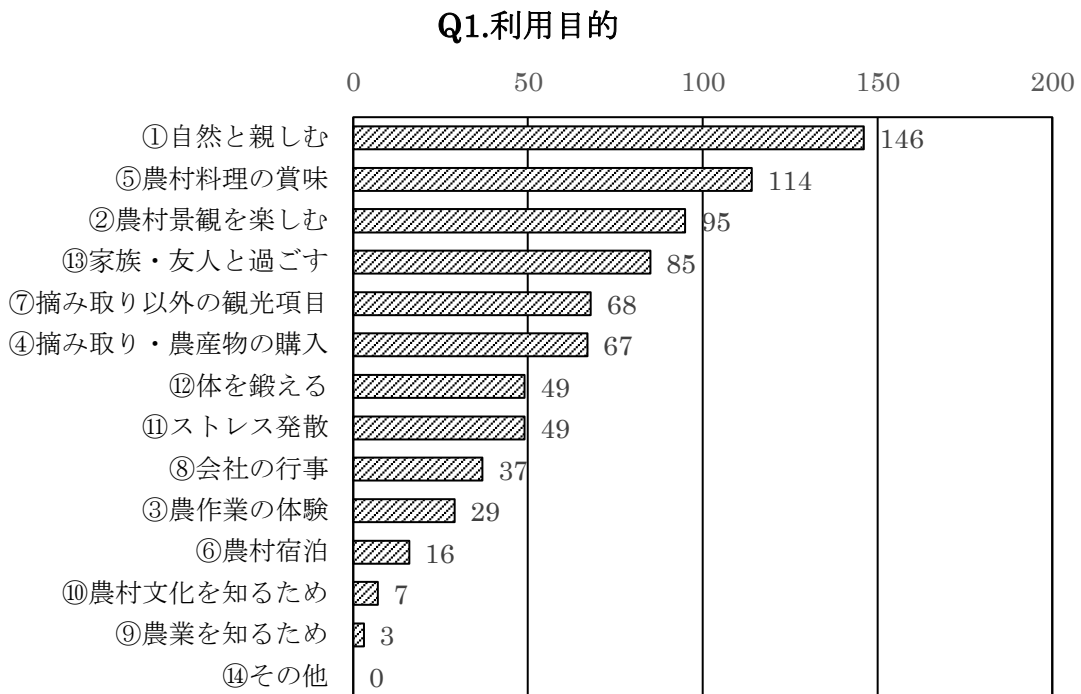


図 4-2 利用目的に関する回答（図内の数値は回答者の人数を示す）

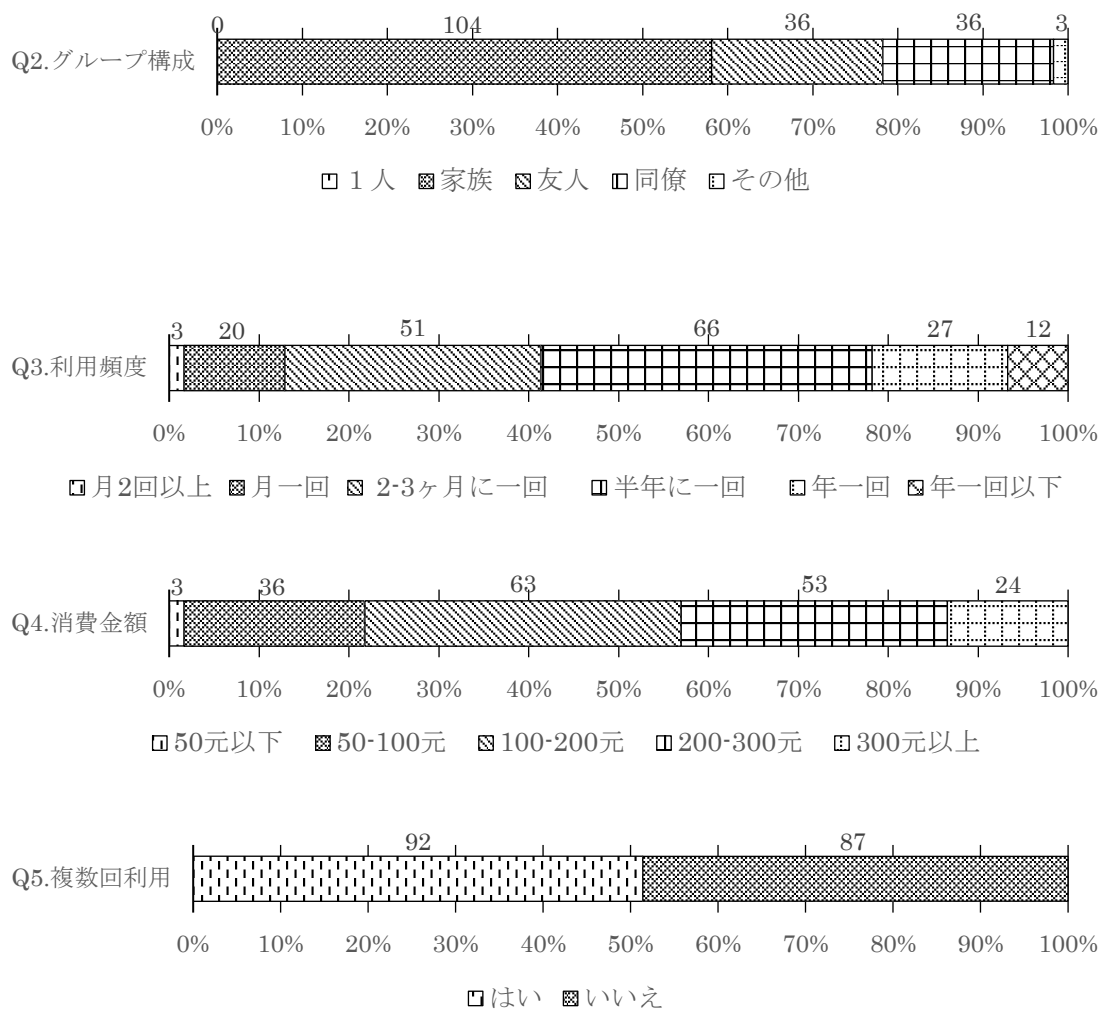


図4-3 頻度・支出などに関する回答（図内の数値は回答者の人数を示す）

パート②の単純集計の結果から、以下の傾向が見られた。

(1)利用目的

全回答者179人の中、「自然と親しむ」を選択した回答者が一番多く（81.6%）、「農村料理の賞味」（63.7%）、「農村景観を楽しむ」（53.1%）を選んだ人も回答者の半分を超えている。また、「農業を知るため」（1.7%）、「農村文化を知るため」（3.9%）を選んだ回答者は数%しかいなかった。

(2)グループ構成

回答者の中、「家族と来た」と答えた人が一番多く、58.1%を占めている。また、「友人と来た」や「同僚と来た」と答えた回答者は各20.1%で、「一人で来た」と答えた回答者がいなかった。

(3)利用頻度

回答者の中、「半年に一回」と答えた人 (36.9%) と「2-3ヶ月に一回」と答えた人 (28.5%) が多く、「年一回以下」と答えた人は 6.7% しかいないため。ほとんどの回答者は一年の中アグリ・ツーリズム観光施設を複数回利用している。

(4)平均消費金額

回答者の中、「100-200 元 (約 1693-3387 円)」と答えた人 (35.2%) や「200-300 元 (約 3387-5079 円)」と答えた人が多く、消費金額が 50 元以下 (1.7%) と 300 元以上 (13.4%) の回答者が少ない。

(5)複数回利用

回答者の中、以前周家荘郷観光摘み取り園を利用したことある人は全回答者の 51.4% を占めているため、回答者の半分以上は周家荘郷観光摘み取り園のリピーターであることは分かった。

パート③ (満足度関連) の単純集計結果は以下の通りである。

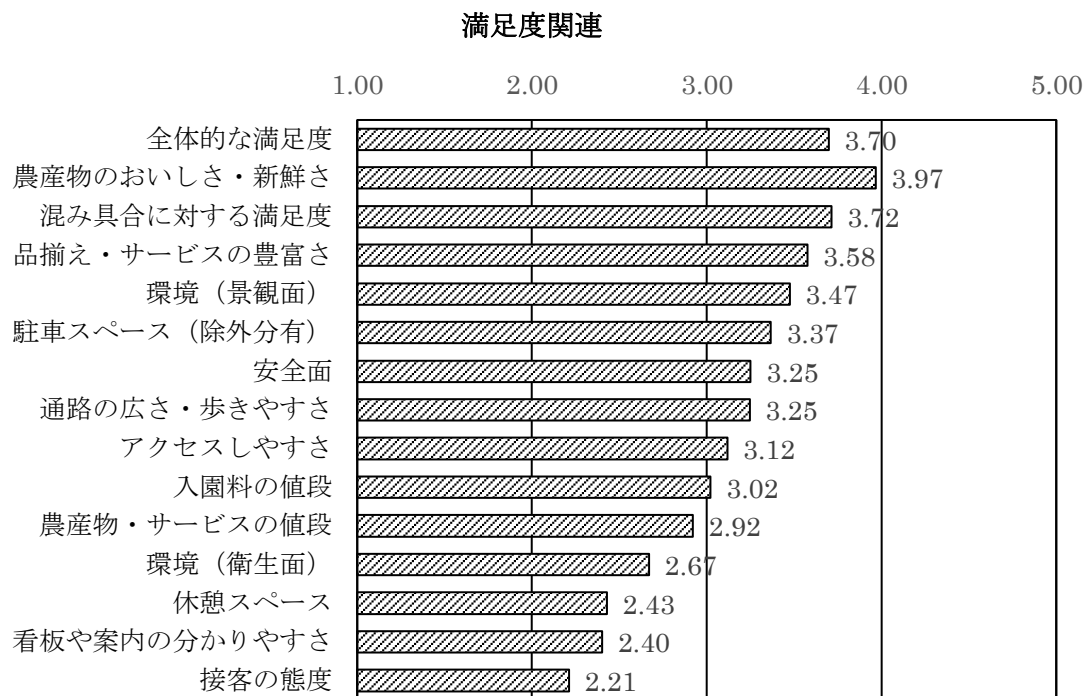


図 4-4 満足度に関する回答²³ (図内の数値は各項目の得点の平均値を示す)

周家荘郷観光摘み取り園における全体的な満足度の得点は 3.70 点で、「どちらでもない」と「やや満足」の間の値である。平均値がこの値より高い項目は、「農産物のおいしさ・新鮮さ (3.97 点)」と「混み具合 (3.72 点)」である。また、この三項目以外、平均点が「どちらでもない」の配点 (3 点) を超えた項目は「品揃え・サービスの豊富さ (3.58 点)」、「安全面 (3.25 点)」、「入園料の値段 (3.02 点)」、「駐車スペース (3.37 点)」、「通路の広さ・

²³ 「駐車スペース」は来園手段が「自家用車」を選択した回答者のみを集計対象とした。

歩きやすさ (3.25 点)、「環境 (景観面) (3.47 点)」と「アクセスしやすさ (3.12 点)」で、平均点が「どちらでもない」の配点より低い項目は「農産物・サービスの値段 (2.92 点)」、「接客の態度 (2.21 点)」、「休憩スペース (2.43 点)」、「看板や案内の分かりやすさ (2.40 点)」と「環境 (衛生面) (2.67 点)」である。

単純集計結果により、回答者が周家荘郷観光摘み取り園の農産物のおいしさ・新鮮さや観光客の密度にやや満足しており、従業員の態度、休憩スペースの数、園内の看板・案内や園内の衛生面にやや不満がある。

4-4 アンケート調査の結果 (データ分析)

4-3では、アンケート調査の結果をまとめたが、各データの相関性を知るため、単純集計の結果に基づき、相関分析や主成分分析を行った。

(1)相関分析

アグリ・ツーリズムの経営は来客数と客単価によって左右されるため(詹, 2009)、回答者のアグリ・ツーリズムの「利用頻度」「平均消費金額」と回答者の性別、年齢、最終学歴などの数値化できる質問項目との相関性を求めた。相関分析を行うために、数値化できる各質問項目の配点を設定した。(表 4-6)

表 4-6 数値化できる各項目の配点

質問項目	選択肢	配点	質問項目	選択肢	配点		
性別	男性	0	平均月収	2000 元以下	1		
	女性	1		2000-5000 元	2		
				5000-10000 元	3		
				10000 元以上	4		
年齢	18 歳以下	1	利用頻度	月 2 回以上	6		
	18-30 歳	2		月 1 回	5		
	31-40 歳	3		2-3 ヶ月に 1 回	4		
	41-50 歳	4		半年に 1 回	3		
	50 歳以上	5		年 1 回	2		
最終学歴	中卒以下	1	平均消費金額	50 元以下	1		
				高卒・高専	2	50-100 元	2
				大卒	3	100-200 元	3
				修士・博士	4	200-300 元	4
					300 元以上	5	

IBM SPSS Statistics 24 を使い、表 4-6 に基づき数値化されたデータに対する相関分析を行った。また、「学生」と答えた回答者を除外した。

表 4-7 相関分析①

		性別	年齢	最終学歴	平均月収	利用頻度	消費金額
利用頻度	Pearson の相関係数	-.030	.077	.348**	.255**	1	-.206**
	有意確率 (両側)	.702	.332	.000	.001		.009
	度数	160	160	160	160	160	160
消費金額	Pearson の相関係数	-.066	.116	.145	.053	-.206**	1
	有意確率 (両側)	.408	.146	.067	.509	.009	
	度数	160	160	160	160	160	160

**、相関係数は 1% 水準で有意 (両側) である。

相関分析①の結果により、以下の傾向が見られた。

1. 回答者の利用頻度と最終学歴は 1%水準で有意の正の相関が見られ、最終学歴が高いほど、利用頻度も高くなる傾向が見られる。
2. 回答者の利用頻度と平均月収は 1%水準で有意の正の相関が見られ、平均月収が高いほど、利用頻度も高くなる傾向が見られる。
3. 回答者の利用頻度と消費金額は 1%水準で有意の負の相関が見られ、利用頻度が高いほど、一回当たりの消費金額が低くなる傾向が見られる。
4. 回答者の利用頻度は性別、年齢との強い相関性が見られなかった。
5. 回答者の消費金額は性別、年齢、最終学歴、平均月収との強い相関性が見られなかった。

また、全体的な満足度と満足度関連の各質問項目の間の相関分析を行った。(表 4-8)

表 4-8 相関分析②

全体的な満足度					
アクセスしやすさ	Pearson の相関係数	.019	入園料の値段	Pearson の相関係数	.047
	有意確率 (両側)	.797		有意確率 (両側)	.532
	度数	179		度数	179
環境 (衛生面)	Pearson の相関係数	.088	農産物・サービスの値段	Pearson の相関係数	-.137
	有意確率 (両側)	.243		有意確率 (両側)	.068
	度数	179		度数	179
環境 (景観面)	Pearson の相関係数	.296**	混み具合	Pearson の相関係数	-.032
	有意確率 (両側)	.000		有意確率 (両側)	.674
	度数	179		度数	179
通路の広さ・歩きやすさ	Pearson の相関係数	.114		Pearson の相関係数	.414**

すさ	有意確率（両側）	.128	農産物のおいしさ・新鮮さ	有意確率（両側）	.000
	度数	179		度数	179
看板や案内の分かりやすさ	Pearson の相関係数	.032	安全面	Pearson の相関係数	.016
	有意確率（両側）	.675		有意確率（両側）	.829
	度数	179		度数	179
駐車スペース（除外分有）	Pearson の相関係数	.050	商品の品揃え・サービスの種類の豊富さ	Pearson の相関係数	.051
	有意確率（両側）	.504		有意確率（両側）	.498
	度数	178		度数	179
休憩スペース	Pearson の相関係数	-.076	全体的な満足度	Pearson の相関係数	1
	有意確率（両側）	.309		有意確率（両側）	
	度数	179		度数	179

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

相関分析②の結果により、回答者の全体的な満足度は「環境（景観面）」との間や「農産物のおいしさ・新鮮さ」との間において 1%水準で有意の正の相関が見られた。

(2)主成分分析

回答者のアグリ・ツーリズム観光施設に関する主な利用目的を分析するために、利用目的に関する質問項目の集計結果を数値化した上で、Microsoft Excel 2013 を使いデータを 0-1 の範囲で標準化し、主成分分析（バリマックス回転）を行った（数値化した項目は表 4-3 参照）。また、アンケートでは「あなたがアグリ・ツーリズム観光施設を利用する主な目的について、最も近いものを 5 つ以内選んでください。（周家荘郷観光摘み取り園に限らず）」と質問したため、数値化の際はチェックされた選択肢を 1 点とし、チェックされなかった選択肢を 0 点とした。

IBM SPSS Statistics 24 を使い、標準化されたデータに対する主成分分析を行った。また、KMO および Bartlett の検定結果（表 4-9）により、データは主成分分析に適していると考えられる。²⁴

表 4-9 KMO および Bartlett の検定結果

Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性の測度		.593
Bartlett の球面性検定	近似カイ 2 乗	259.517
	自由度	78
	有意確率	.000

²⁴ KMO とは、因子分析と主成分分析における標本妥当性の測度であり、結果が 0.5 以上であれば有意な結果が得られると考えられる。また、Bartlett の球面性の検定の有意確率が .000 の場合、有意差がみられ、有意な結果が得られると考えられる。

主成分分析により、表 4-10 の結果が得られた。表により、第 1 主成分の寄与率は全体の 17.37%を占め、第 1 主成分から第 6 主成分までの累積寄与率が 64.83%であり、全体的の約 3/5 を説明できる。抽出された他の主成分は固有値が 1 以下であるため切り捨てた。

表 4-10 説明された分散の合計

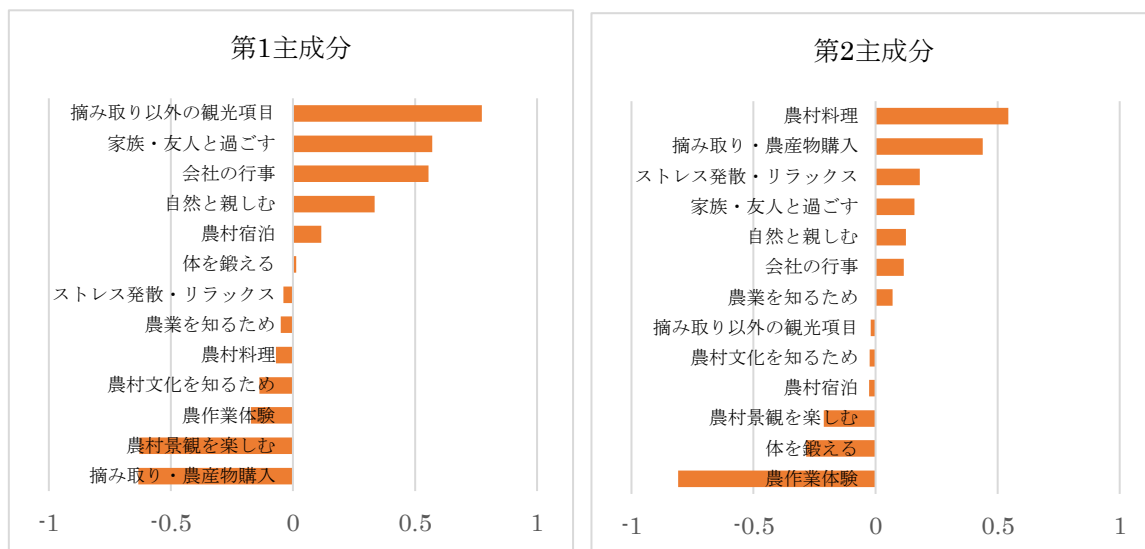
成分	初期の固有値			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
1	2.26	17.37	17.37	2.21	17.03	17.03
2	1.53	11.77	29.14	1.36	10.46	27.49
3	1.41	10.81	39.95	1.29	9.92	37.41
4	1.17	9.00	48.94	1.23	9.42	46.83
5	1.04	8.01	56.96	1.17	9.01	55.84
6	1.02	7.88	64.83	1.17	8.99	64.83

因子抽出法：主成分分析

本分析では、主成分負荷量を用いて解釈を行う。各要素の主成分負荷量を図で示すと図 4-5 となる。

図 4-5 から、以下の傾向が見られる。

第 1 主成分の主成分付加量は「摘み取り以外の観光項目」「家族・友人と過ごす」「会社の行事」が高いことから、この三つの要素は第 1 主成分と関係が高いことがわかった。この主成分に沿って来園している人の特徴は「農村景観や摘み取りに関心が無いが、摘み取り以外の観光項目や家族・会社といった他者と過ごすために来園している」と推察される。



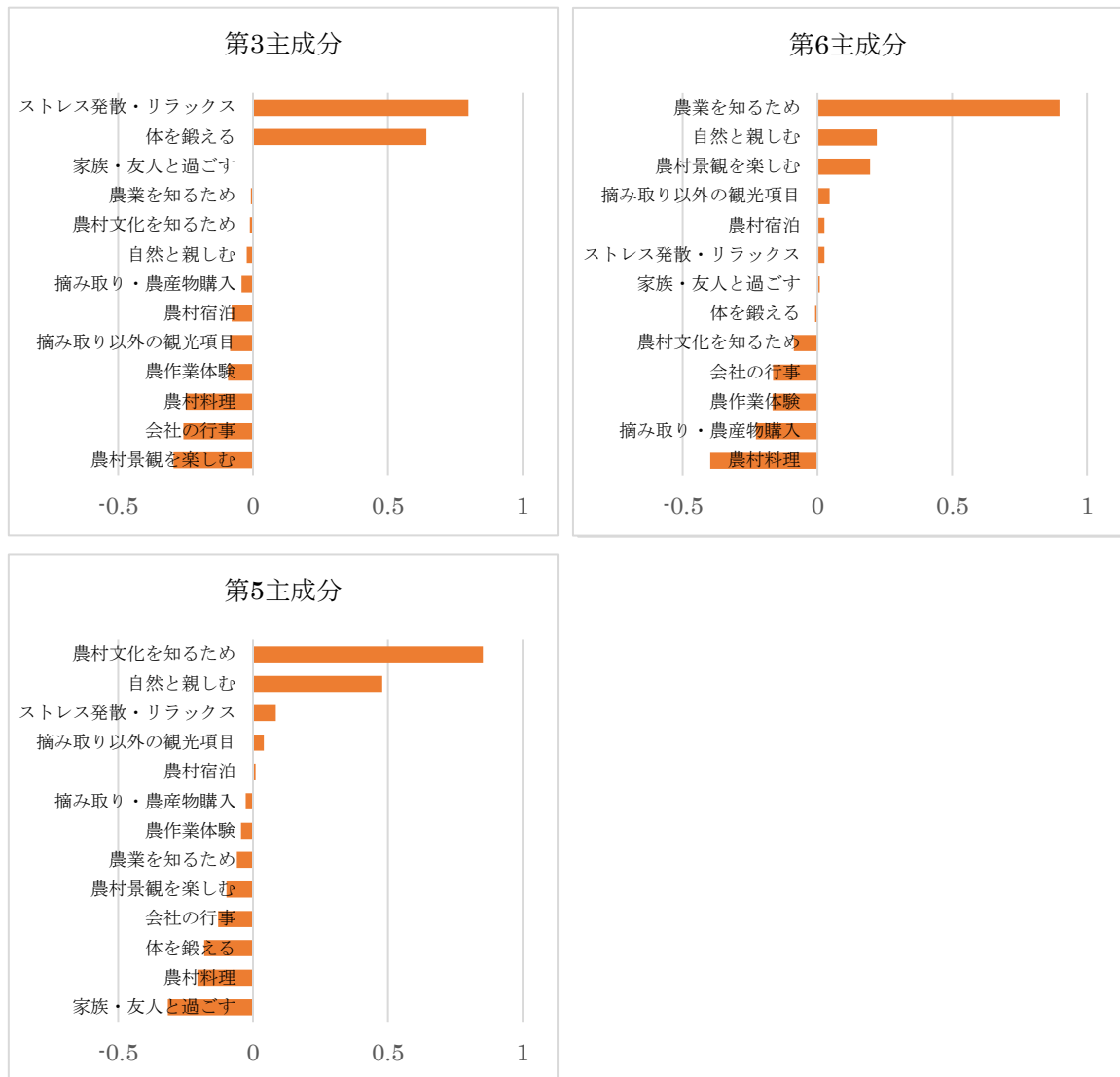


図4-5 各要素の主成分負荷量

第2主成分の主成分付加量は「農村料理」と「摘み取り・農産物の購入」が高いことから、この二つの要素は第2主成分と関係が高いことがわかった。この主成分に沿って来園している人の特徴は「農作業や体を動かすことをしたくないが、農村料理の賞味、摘み取りや販売される農産物が目当てで来園している」と推察される。

第3主成分の主成分付加量は「ストレス発散・リラックス」と「体を鍛える」が高いことから、この二つの要素は第3主成分と関係が高いことがわかった。この主成分に沿って来園している人の特徴は「農村景観に関心がないが、運動やストレス解消のために来園している」と推察される。

第4主成分の主成分付加量は「農村宿泊」が高いことから、この要素は第4主成分と関係が高いことがわかった。この主成分に沿って来園している人の特徴は「景観、料理や体を動かすことに興味がないが、農村で宿泊するために来園している」と推察される。

第5主成分の主成分付加量は「農村文化を知るため」と「自然と親しむ」が高いことから、この二つの要素は第5主成分と関係が高いことがわかった。この主成分に沿って来園している人の特徴は「他人と関わることや料理の賞味などに興味がないが、農村特有の観光資源を楽しむために来園している」だと推察される。

第6主成分の主成分付加量は「農業を知るため」が高いことから、この要素は第6主成分と関係が高いことがわかった。この主成分に沿って来園している人の特徴は「農村料理や摘み取りに興味がないが、農業自体に興味があるため来園している」だと推察される。

また、Microsoft Excel 2013を使い、各サンプルの各主成分における主成分得点を算出し、主成分得点の散布図を作成した。

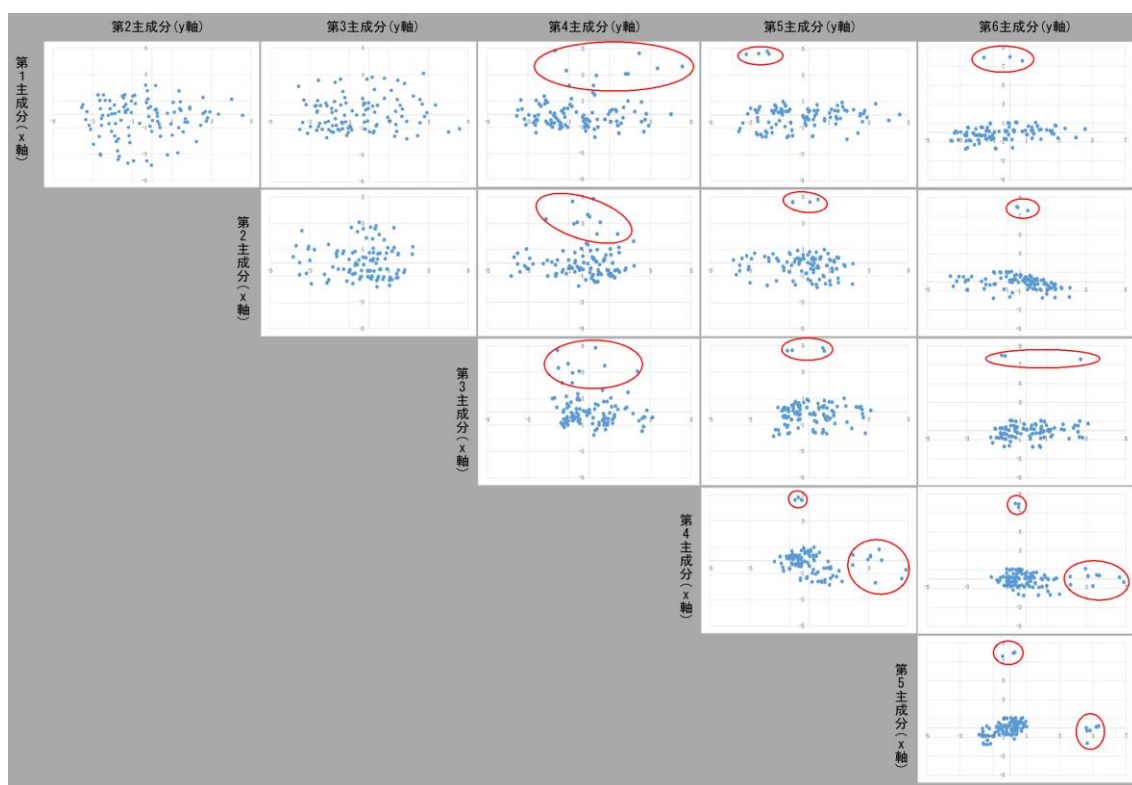


図 4-6 主成分得点散布図

散布図によると、第1～第3主成分の散布図は分散がしているため、サンプルの大部分はこの3つの主成分のいずれかの影響を受けていると考えられる。また、第4主成分に関する目的意識を持っているサンプルは10名程度しかなく、第5・6主成分の影響を受けているサンプルは数名程度しかいないということが分かった（赤い丸で囲まれた部分）。したがって、第1～第3主成分でサンプルの大部分を説明することができると考えられる。

4-5 小括

本章では、周家荘郷観光摘み取り園の利用者を対象とするアンケート調査の結果を集計し、分析を行った。集計結果と分析結果により、回答者からは以下の傾向が見られる。

1. 回答者の年齢は30-40代に集中しており、また、女性は男性より多く、約六割を占めている。九割以上の回答者は石家荘市市内に住んでおり、回答者の約五割は事業単位・企業単位の会社員で、全体的に教育程度が高い傾向が見られ、約三割の回答者の収入は石家荘市都市部住民の平均月収を超えている。
2. 回答者の中、一人で来園した回答者が居らず、約六割の回答者は家族と来園している。回答者のアグリ・ツーリズム観光施設における平均消費金額は100-300元に集中し、約八割の人が年二回以上アグリ・ツーリズム観光施設を利用している。また、五割以上の人は周家荘郷観光摘み取り園を複数回利用している。さらに、相関分析により、回答者の最終学歴と平均月収が高いほど、来園頻度が高い傾向が見られる。
3. 回答者のアグリ・ツーリズム観光施設における主な利用目的について、「自然と親しむ」「農村料理の賞味」や「農村景観を楽しむ」を選択した回答者の数は全体の半分以上を超え、「家族・友人と過ごす」を選択した回答者も約半分以上を占めている。逆に、石家荘市市内の大型アグリ・ツーリズム観光施設の主な経営内容である「摘み取り・農産物の購入」を選択した回答者は約四割しかなかった。また、周家荘郷摘み取り園では、農村文化や農業を観光客に知ってもらうために郷歴史記念館や民俗文化博物館を建設したが、「農村文化を知るため」「農業を知るため」を選択した回答者が数%ずつしかなかった。さらに、早期萌芽段階では、農村宿泊を主な経営内容とする「農家楽」が一時期流行ったが、「農村宿泊」を選択した回答者は約二割しかなかった。
4. 回答者は周家荘郷観光摘み取り園全体に対してやや満足しており、「農産物のおいしさ・新鮮さ」や「混み具合」についても満足している傾向が見られているが、「農産物・サービスの値段」「接客の態度」「休憩スペース」「看板や案内の分かりやすさ」や「環境（衛生面）」に対してやや不満である。相関分析の結果により、回答者の周家荘郷観光摘み取り園に対する全体的な満足度は「環境（景観面）」や「農産物のおいしさ・新鮮さ」と強く関連している。また、相関分析の結果は回答者のアグリ・ツーリズムの利用目的の単純集計結果（上位三項目は「自然と親しむ」「農村料理の賞味」や「農村景観を楽しむ」である）と合致していると考えられる。
5. 主成分分析の結果により、大部分の回答者は「農村景観や摘み取りに関心が無いが、摘み取り以外の観光項目や家族・会社といった他者と過ごすために来園している」「農作業や体を動かすことをしたくないが、農村料理の賞味、摘み取りや販売される農産物が目当てで来園している」「農村景観に関心が無いが、運動やストレス解消のために来園している」の三つの主成分のいずれかの影響を受けていると考えられる。

第五章 結果と考察

5-1 調査の結果

本研究は石家荘市におけるアグリ・ツーリズムの展開過程や現状を調査・分析し、周家荘郷摘み取り園を例として、石家荘市におけるアグリ・ツーリズム観光施設の特徴、観光客の傾向や存在している課題を明らかにした。

また、三つの調査内容において、以下の調査結果が得られた。

(1)河北省及び石家荘市におけるアグリ・ツーリズムの展開過程の把握

石家荘市におけるアグリ・ツーリズムは1990年代後半から展開され始めた。2000年代前半まで、市内のアグリ・ツーリズム観光施設は主に農家主体の小規模施設であったが、現在では、経営主体が政府や企業の大規模アグリ・ツーリズム観光施設が主流になっており、小規模施設は減少しつつある。また、ほとんどの大規模アグリ・ツーリズム観光施設の主な経営内容は果物・野菜の摘み取りである。

大都市周辺の事例と同じく、アグリ・ツーリズムの展開により、石家荘市農村地域の過剰労働力が活用され、農民の収入も増加している。また、農村における第二次・第三次産業の発展も促進され、都市と農村の距離が縮まれた。さらに、河北省農業庁がアグリ・ツーリズムに注目しており、「2017年までに、全省のアグリ・ツーリズム観光客数を1億人まで増やし、観光収入を200億元まで増やす」という明確な目標を公表した。以上により、石家荘市のアグリ・ツーリズムはこれからも発展しつつあると考えられる。

(2)周家荘郷観光摘み取り園の実態の把握

石家荘市市内のアグリ・ツーリズム観光施設はそれぞれ特有な優位性を持ち、様々な経営内容を展開している。本研究の主な調査対象である周家荘郷観光摘み取り園からは、豊富な農業資源、アクセスの便利性、安定した経営主体と政府機関からの注目の四つの長所が見られたしかし、現地調査、聞き取り調査やアンケート調査により、周家荘郷観光摘み取り園には、①商品の付加価値が低い②同業他施設との差別化ができていない③園内のハード面の整備の不足④施設周辺のインフラ整備の不足⑤従業員に対する教育の不足⑥新興観光施設の展開による客層流出の六つの問題点が発見された。また、同業他施設に対する現地調査や研究機関・政府機関の職員に対するインタビュー調査により、②③④⑤⑥の五つの問題点は石家荘市市内のアグリ・ツーリズム観光施設の共通の課題であることは分かった。

(3)周家荘郷観光摘み取り園の利用者の傾向及び満足度の把握

周家荘郷観光摘み取り園の利用者を調査対象とし、アンケート調査を行った。

回答者の基本情報に関する質問項目の集計結果により、周家荘郷観光摘み取り園の利用者は石家荘市都市部に居住する企業・事業単位の会社員に集中しており、教育程度が石家荘市市民の平均水準よりかなり高いということが分かった。また、教育程度と平均月収が高い

ほど、アグリ・ツーリズム観光施設の利用頻度が高くなる傾向が見られたため、石家荘市市内のアグリ・ツーリズム観光施設の主な利用者は高学歴・高収入の30-40代の石家荘市都市部住民だと考えられる。

アグリ・ツーリズム観光施設の利用目的に関する質問項目の集計結果により、回答者の主な利用目的は農村景観・自然景観を楽しむことや農村料理の賞味に集中しており、摘み取り・農産物の購入を主な利用目的とする回答者は四割以下であった。また、農作業体験や農村宿泊を目的とする回答者は二割以下で、農業や農村文化を知ることを目的とする回答者は数人しかなかった。さらに、主成分分析の結果により、回答者は「農村景観や摘み取りに関心が無いが、摘み取り以外の観光項目や家族・会社といった他者と過ごすために来園している」「農作業や体を動かすことをしたくないが、農村料理の賞味、摘み取りや販売される農産物が目当てで来園している」「農村景観に関心がないが、運動やストレス解消のために来園している」の三つの主成分のいずれかの影響を受けていると考えられる。

来園者の満足度に関する質問項目の集計結果により、回答者は周家荘郷観光摘み取り園全体に対してやや満足しているが、値段・接客の態度・衛生面に対してやや不満である。また、相関分析の結果により、回答者の周家荘郷観光摘み取り園に対する全体的な満足度は「景観の美しさ」「農産物のおいしさ」と強く関連している。

5-2 総合考察

調査結果に対する分析により、以下の二つの課題が見られた。

(1) アグリ・ツーリズム観光施設の経営内容と利用者のニーズが合致していない

本研究の第二章では、石家荘市市内のアグリ・ツーリズム観光施設の主な経営内容は果物・野菜の摘み取りであることが明らかになった。河北省農業庁も「石家荘市のアグリ・ツーリズム観光施設は技術園區、摘み取り、農耕文化の宣伝、観光遊樂、農作業の体験などを重要な経営内容とするべき」と呼びかけている。北京などの大都市では、都市住民は農作業の体験や農耕文化に対するニーズが高いが(黄ら, 2013)、第四章のアンケート調査の結果により、石家荘市のアグリ・ツーリズム観光施設の利用者の主な利用目的は風景を楽しむことや農村料理の賞味に集中しており、摘み取りを主な利用目的とする利用者は回答者の37.4%しかなく、農作業体験や農耕文化を知ることを主な目的とする利用者は極めて少ないことが分かった。石家荘市市内のほとんどのアグリ・ツーリズム観光施設は摘み取りを主な経営内容とし、農業や農村文化に関する展示にも力を入れているため、観光施設が提供している経営内容と利用者のニーズが合致していないと考えられる。この違いが生じた原因は、河北省の都市部住民の構成の特殊性だと推測される。

1995年から、北京・上海などの大都市の近郊にて、大規模なアグリ・ツーリズム観光施設が大量に展開され始めた。1995年の時点で、北京市の都市化率は75.2%で、上海市は70.8%

であるが、河北省の都市化率は17.1%しかなく、省民の八割以上は農民である。経済の発展により、河北省の都市化が早いスピードで進んでおり、2015年の時点で都市化率が50%を超えたが、都市部の住民の半分以上は1995年～2015年の間に都市部住民化された農民だと考えられる。呂ら(2006)により、大都市の都市部住民は普段の生活の中で体験できない摘み取り、農耕文化の展示や農作業体験などの農村特有の要素に興味を持っていることが分かった。しかし、河北省の農民出身の都市部住民はすでにこれらの要素を熟知しているため、大都市の都市部住民と比べて、これらの要素に対するニーズが低いと考えられる。

(2) 省のアグリ・ツーリズムに関する政策方針の方向性を再検討する必要がある

2015年10月に公表された『河北省農業庁のアグリ・ツーリズムの高速発展に関する意見』により、河北省は2017年までに、100箇所の大型アグリ・ツーリズム観光施設を建設し、50箇の村をアグリ・ツーリズム観光用に改造し、30箇の高品質アグリ・ツーリズム観光路線を作ることを目標としている。しかし、第三章の調査結果により、石家荘市の既存のアグリ・ツーリズム観光施設には様々な課題が存在しており、その中、ハード面の整備の普遍的不足や同業他施設との差別化ができていないことが特に問題視されている。これらの課題を解決せず、観光施設の数だけを増やすと、逆に市内のアグリ・ツーリズムに悪影響を与える恐れがある。大いなる目標を立てる前に、既存の問題点を洗い出し、対策を打ち出すべきだと考えられる。

5-3 今後の課題

都市部住民の生活水準の上昇に伴い、石家荘市の観光産業が発展しつつあり、アグリ・ツーリズムはこれからも展開されつつあると考えられる。しかし、本研究の調査結果により、アグリ・ツーリズムの更なる展開を図る場合には、省が打ち出した政策方針や市内のアグリ・ツーリズム観光施設の経営内容を再検討する必要があると考えられる。

本研究では、石家荘市市内の三つのアグリ・ツーリズム観光施設を中心に現地調査を行い、周家荘郷観光摘み取り園の来園者に対するアンケート調査を行った。しかし、石家荘市のすでに開園した大型アグリ・ツーリズム観光施設の数は2015年11月の時点で60を超え、建設中の施設も数ヶ所存在しているため、今回の調査結果は石家荘市全体を代表することができない可能性があると考えられる。さらに、河北省の農業、観光産業やアグリ・ツーリズムに関する統計データは多数存在しているが、石家荘市の場合、アグリ・ツーリズムを利用する観光客数や観光収入などのデータが統計されていないため、市全体のアグリ・ツーリズムの規模を把握できなかった。これらの問題については改めて検討する必要があるため、今後の課題とする。

参考文献

- 王云才(2006):中国農村観光発展の新しい形態と新しい模式, 旅行学刊, 21(4), pp10-11
- 王志偉(2007):アグリ・ツーリズムの中で我が国の農業文明を体験する, 農業科技と信息, 9, pp24-30
- 黄毅斌, 劉輝, 翁伯琦(2012):生態農業観光園計画:理念と实例, 中国農業科学技術出版社, pp11-15
- 黄志綱(2007):科学的計画によりアグリ・ツーリズム観光施設の発展を促進する, 中国農業信息, 2, pp17-18
- 黄凱, 蘆書雲(2013):観光摘み取り園の経営面の問題点と対策に関する考察——北京昌平十三陵地区を例として, 北京農学院学報, Vol. 28, No. 4
- 河北省統計局(2016):河北農村統計年鑑 2015, 中国統計出版社
- 河北省農業環境保護監視センター(2016), 河北省アグリ・ツーリズム発展概況, アグリ・ツーリズムと美しい農村, 2016(1), pp44-47
- 河北省農業庁(2015):河北省農業庁のアグリ・ツーリズムの高速発展に関する意見, 河北農業, 247(10), pp4-7
- 郭煥成(2007):我が国のアグリ・ツーリズムの現状及び対策に関する研究, 北京第二外国語大学学報, 2007(1), pp66-71
- 郭煥成, 王云才(2000):観光農業発展研究, 經濟地理, 20(2), pp119-124
- 近藤功庸, 宋柱昌, 山本康貴(2009): 韓国の地域経営型グリーン・ツーリズムにおける先進事例分析, 農林業問題研究, 174, pp137-142
- 光定伸晃, 辻和良(2009): 消費者の観光農園利用実態と観光農園経営の課題——消費者アンケートと和歌山県内の事例をもとに農林業問題研究, 34, pp29-34
- 朱小岩(2013):観光摘み取り園の計画に関する研究——河南省チャヤ山観光摘み取り園の計画設計を事例として, 河南農業大学修士論文, pp3-4
- 盛正発(2006):科学発展観による農村観光開発, 商場現代化, 2, pp214
- 孫芸恵, 楊存棟, 陳田(2007):我が国の観光農業発展現状と傾向, 經濟地理, 27(5), pp835-839
- 中国観光発展報告(2016), 『中国観光報』2016.5.18 第2版
- 中国国家観光局(2016):中国観光統計年鑑 2015, 中国観光出版社
- 中国国家農業部:全国農産物批發價格行情(最終閲覧日:2017年2月23日)
- <http://nz.mofcom.gov.cn/>
- 中国農業部郷鎮企業局(2012):全国のアグリ・ツーリズム展開状況に関する研究報告, 中国郷鎮企業, 6, pp59-60
- 張環宙(2007):海外農村観光発展経験及び中国に対する啓発, 人文地理, 22(4), pp82-85
- 張占更(2006):アグリ・ツーリズムの対象、本質と特徴, 上海農村經濟, 2006(3), pp73-76

- 唐歩龍(2008):我が国のアグリ・ツーリズムの展開現状・現存の問題点と対策に関する研究, 安徽農業科学, 36(28), pp12447-12450
- 馬勇, 趙蕾, 宋鴻(2007):中国農村観光の発展道路及び模式——成都農村観光発展模式を例として, 經濟地理, 27(2), pp336-339
- 半澤早苗, 杉浦芳夫, 原山道子(2010):東京都練馬区におけるブルーベリー観光農園の立地とその現状. 『観光科学研究』, 3, pp155-168
- 楊永(2010):国内観光需要を影響する要素に対する分析, 北方經濟, 6, pp71-73
- 羅文斌, 徐飛雄, 賀小栄(2012): 観光産業の発展と經濟増長、第三産業増長との動態関係——中国の1978~2008年のデータに基づく検証, 旅行学刊, 10, pp20-26
- 羅明義(2005):雲南省のアグリ・ツーリズムの模式と特徴, 旅行学刊, 4, pp10-11
- 李徳明, 程久苗(2005):農村観光と農村經濟の持続可能な発展模式と対策に関する分析, 人文地理, 3, pp84-87
- 林琢也(2013):山梨県南アルプス市西野地区におけるアグリ・ツーリズムの変化と観光農園経営者の適応戦略. 地学雑誌, 122(3), pp418-437
- 練紅宇(2003):中国農業観光に関する諸問題, 成都大学学报, 22(4), pp45-49
- 呂振華, 錢益春, 李紅梅(2007):湖南省アグリ・ツーリズムの発展現状、問題と対策, 集團經濟研究, 2007(8), pp142-143
- 呂鶴劍, 劉ビン(2006):中国農業生態観光發展の現状及び対策, 陝西農業科学, 1, pp95-97
- 舒伯陽(1997):中国の農業観光の現状分析と将来の展望, 旅行学刊, 5, pp41-43
- 崔麗賢, 劉金利(2015):河北省の果樹産業の問題点と対策, 落葉果樹, 47(4), pp25-27
- 齋藤雪彦, 中村攻, 木下勇(1998):愛知県におけるアグリ・ツーリズムの趨勢とその評価に関する研究. 千葉大学学报, 53, pp103-113
- 蘆雲亭, 王建軍(2001):生態観光学, 観光教育出版社, pp10-18
- 蘆雲亭, 劉軍萍(1995):観光農業, 北京出版社, pp72-78
- 趙仕紅(2015):市場構成の視角からのアグリ・ツーリズムに関する研究, 合肥工業大学出版社, pp55-64
- 閻逸, 董峰(2001), 大都市中心と郊外観光の空間的相互作用について, 宿州師專学报, 2004(04), pp12-14
- 詹玲(2009):アグリ・ツーリズムの發展の若干問題に関する研究, 中国農業出版社, pp82-86

謝辞

修士論文を執筆するにあたり、多くの方々に大変お世話になりました。

指導教員の斎藤馨先生には、二年間を通して大変お世話になりました。研究に対する正しい考え方と姿勢を教えて頂き、研究内容に対するコメントも多数頂きました。また、合同ゼミでは、いつも山本先生の鋭いご指摘を頂き、大変勉強になりました。先生方のご指導、本当にありがとうございました。

研究室ゼミと合同ゼミでは、東京大学客員研究員の浜泰一さん、東京大学空間情報科学研究センターの中村和彦さん、筑波大学大学院の寺本悠子さんからたくさんコメントを頂きました。本当にありがとうございました。

修士研究を進めるにあたり、聞き取り調査や現地調査で多くの方にご協力を頂き、大変親切にいただきました。アンケート調査に協力してくださった回答者の皆様、聞き取り調査で協力してくださった周家荘郷観光摘み取り園の責任者と職員の皆様と河北省観光局の皆様には、心から感謝いたします。また、お忙しい中、河北省のアグリ・ツーリズムに関する多数の文献資料と統計データを提供してくださった河北省観光計画発展研究院の劉筱秋院長と蘇劍副院長には、大変感謝しております。

研究室の先輩方と同期にも大変お世話になりました。データの分析についていろいろ教えてくださった先輩の大塚啓太さん、論文の日本語をチェックしてくださった長濱和代さんには、心より感謝いたします。また、先輩の内田竜嗣さん、于添さん、同期の荒井智晟君と中村英史君からは、研究だけでなく、生活面に関してもいろいろ助けてくださり、とても感謝しています。

研究室の後輩の郭詩怡さんは、英文要旨の作成を手伝っていただきました。ありがとうございました。

最後に、研究と勉強に専念できるように、常に心の支えとなり、母国から見守ってくれた両親に感謝いたします。本当にありがとうございました。

2017年1月

周 云萱